

161  
746

百種  
珍

編七廿第

小兒養育法

全

醫學博士 小金井良精君序  
醫學士 中村正道著

東京博文館藏版

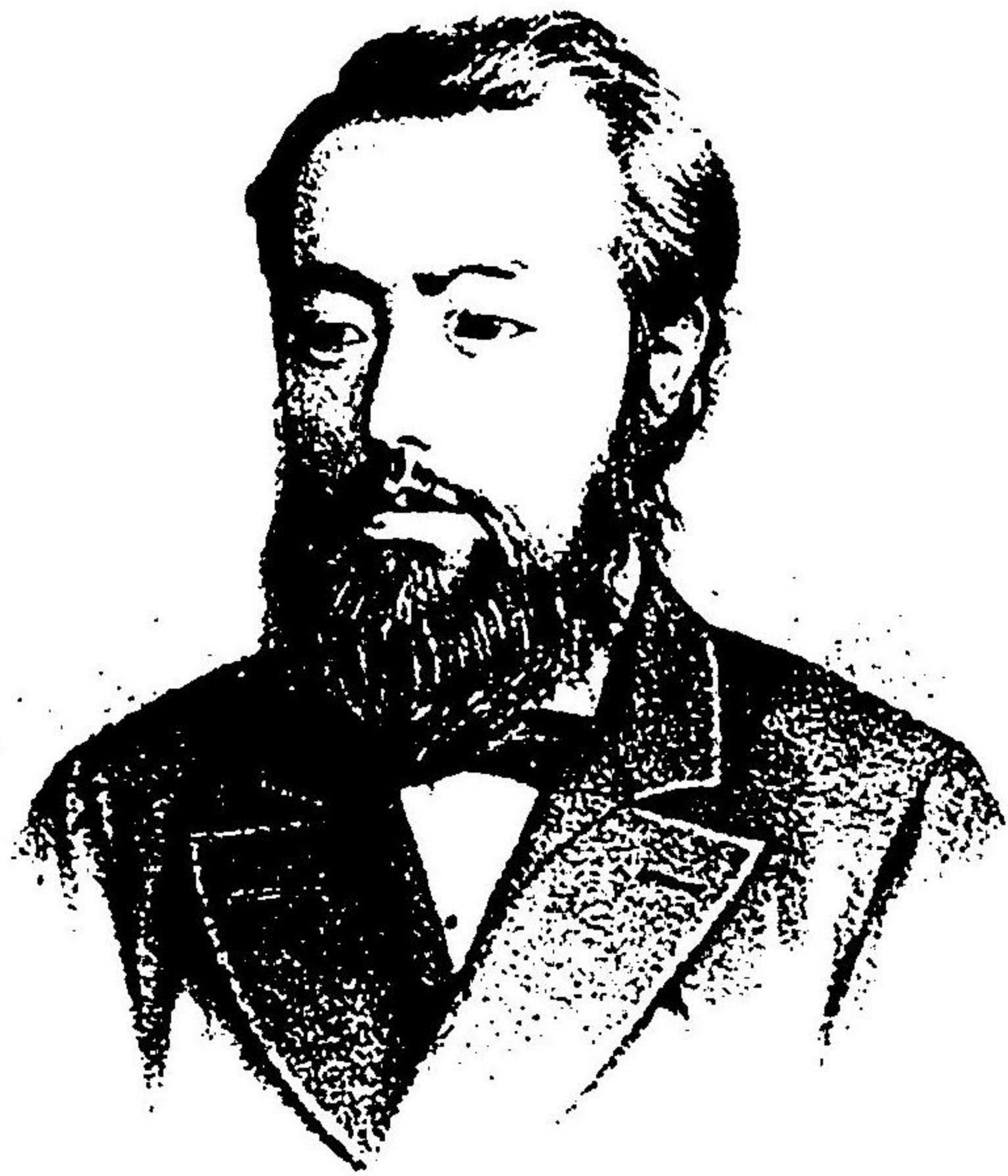
特62  
323

醫學博士小金井良精君序  
醫學士中村正道著

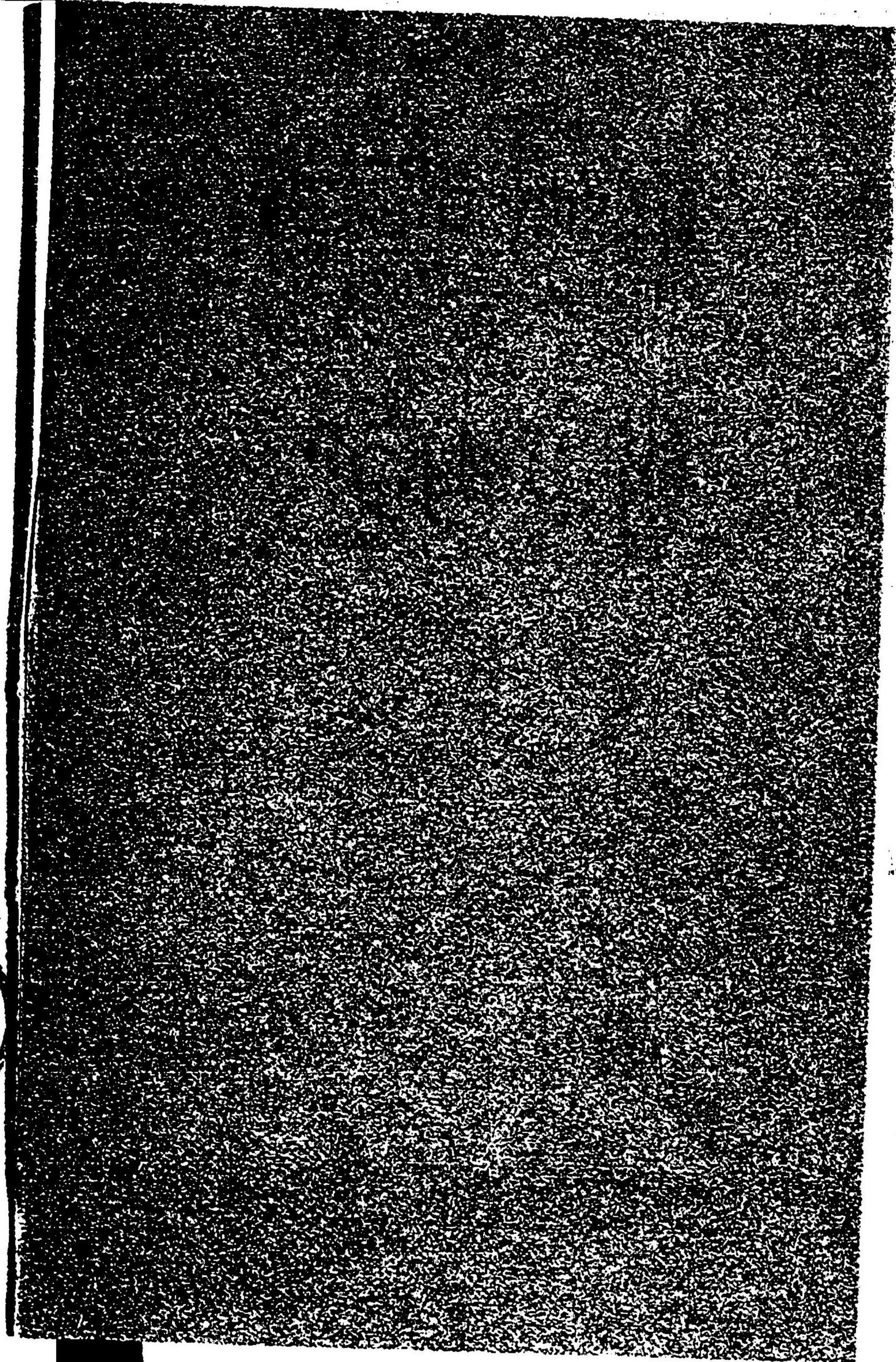
# 小兒養育法

全

東京博文館藏版



士學醫  
像肖道正村中



小兒養育法序

夫レ攝生ハ忽ニスベカラズ而シテ其最忽ニス  
ベカラザルモノハ兒時ノ攝生ニ若クハナシ蓋  
シ小兒ノ體質ハ脆軟ニシテ外邪内障ニ犯サル  
、一極メテ易シ若シ養育ノ法其宜シキヲ得ザ  
ルキハ爲ニ生涯多病ニ苦シムノミナラズ終ニ  
夭折スルモノ往往之レアレバナリ亡友中村氏  
茲ニ見ル所アリ一書ヲ著シ小兒養育法ト云フ  
此書ハ中村氏ガ病ヲ熱海ニ養ヒシ頃編メル所  
ナリ中村氏ハ未ダ之ヲ上梓スルニ及バヌシテ

遂ニ没シタリ今其遺稿ヲ閲スルニ單ニ歐米ノ  
 制ニ倣ハズシテ時ニ或ハ自家ノ經驗ヲ加ヘ彼  
 我風俗習慣ノ大ニ異ナルヲ慮リテ邦人ニ適ス  
 ベキ法ヲ説ケリ惟フニ之ヲ讀ミテ益ヲ得ルモ  
 ノハ獨リ非醫者ノミナラズ醫者モ亦或ハ取リ  
 テ參考ニ供スベキモノアラシク乃チ愆愆シテ印  
 行セシメ聊數言ヲ卷端ニ題スト云爾

明治二十六年四月

醫學博士 小金井良精

## 小兒養育法

### 緒言

一古來我國育兒の道整はざりしも漸く政度の軌範に依て  
 人身の壯健を維持し聊か無難に成長せしと誠に多幸な  
 りと云ふべし然れども維新以來國習頓に變遷し日新月  
 化學を小學に修め業を高等の學舎に研く十有余年刻苦  
 撓まず精勵倦まず螢雪の功茲に成り心身又獨立し今や  
 將に雙親の怡顔を拜し身を社會に處し世の名士たり碩  
 學たらんとするに臨み身体漸く衰弱を來し積年の苦辛

も水泡と化し去り幾多の爲すべき事業を後にして早く  
 既に鬼籍に登るもの蓋し少なからず歎すべきの至りと  
 云ふべし余斯の如き不幸を以て世の育兒法の整備せざ  
 るも歸し聊か余か卑見を以て本書を著す幸に江湖の諸  
 彦余と觀を同せば一は以て子孫の幸福を來し一は以て  
 邦家の強盛を抵すの道ならん乎

著 者 誌

小兒養育法

目 録

一 妊婦養生法……………分娩期……………一

一 産褥婦の養生法……………一八

一 生兒取扱法……………入浴……………乳汁……………二四

……………哺乳定度……………新鮮の空氣……………

……………種痘……………

一 乳母撰定法……………四八

一 人工育兒法……………五五

一乳齒發生より學齡期に至る養生法……………六六

食物……………運動……………衣服……………

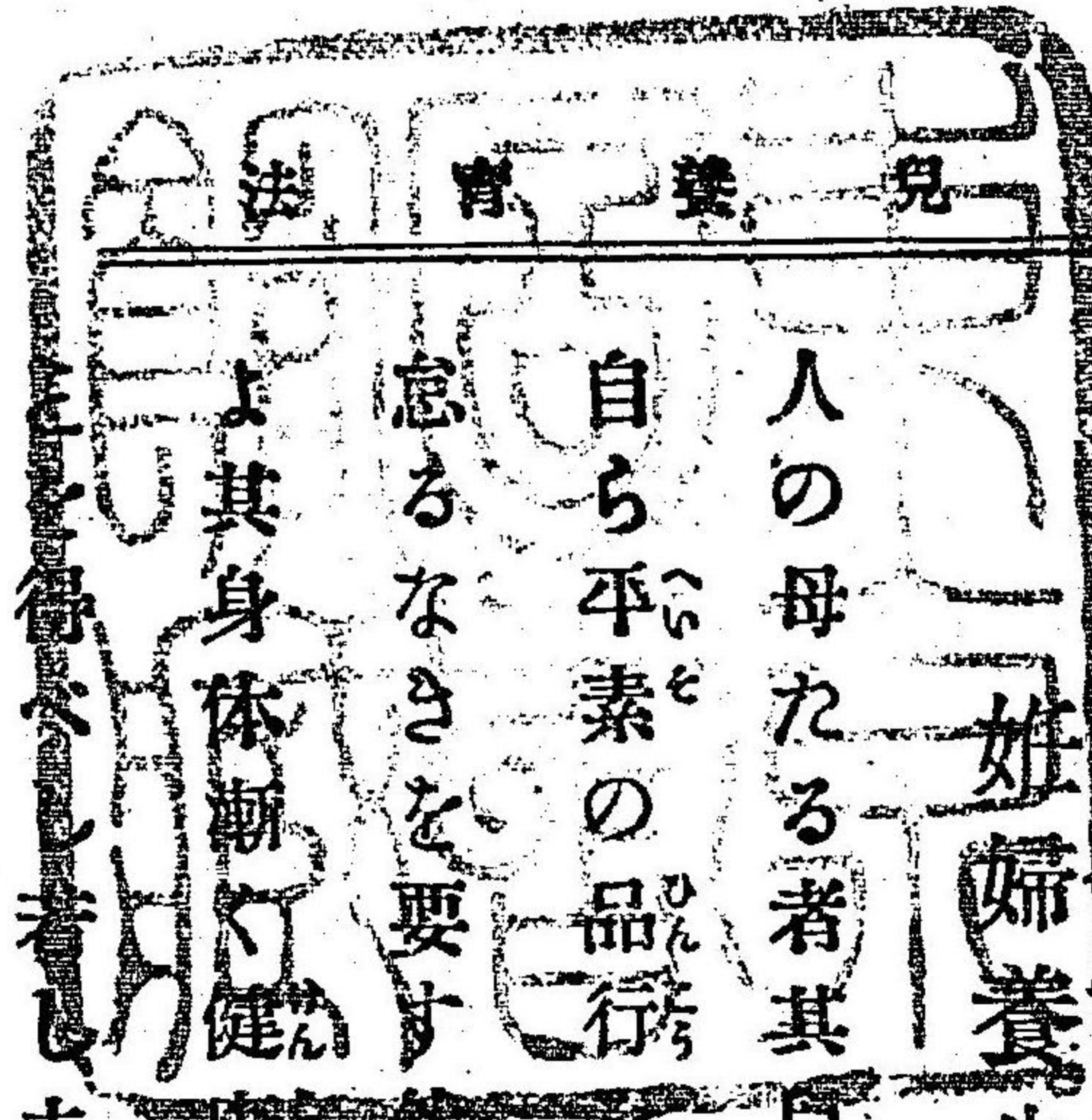
生死の統計……………

小兒養育法目錄終

小兒養育法

醫學士 中村 正道 著

小兒養育法 小 姓婦養生法



人の母たる者其兒の強壯健全ならんことを欲せば宜しく身  
 自ら平素の品行を慎み意を衛生に留め須臾も体育の道に  
 怠るなきを要す然るときに設令生來孱弱多病なるにゆせ  
 よ其身体漸く健康なるを得て從て強壯無病の兒を擧ぐる  
 を得べし者し夫れ然らざるに於ては一朝兒を擧ぐるに  
 (1) 及んで之れを健康無事な生長せしめんと熱望するも所謂

後悔の姿よして最早其の効なきものとする我國現今婦女子の生活の有様は能く其法を得其宜しきに適したりと云ふに非らず亦粗悪なりと云ふに非らざれども多くは植物より調理し其容積の稍大あるを見る且つ滋養の一點に於ては差して西洋食物に譲らざる可しと信ずれども平素適宜の運動を勉めざるときは消化倍々遅緩に流れ身体愈々虚弱に陥り元氣漸く萎縮し心意次第に鬱結し遂に呻吟憂閉の情態を呈するの不幸を惹起するの例少からず故に必ず運動は怠る可るべきものゝ非ず

夫れ妊娠は我人間社會蕃殖の基にして兩性相合して然らしむる生理的作用にて毫も病理的より論すべからざるものなり又妊娠の通常一胎なれども往々雙胎なることあり至て稀に三胎を見るときあり而して受胎期日より二百八十日を過れば分娩する者あり故に一婦たる者懐胎せば萬事萬端事大となく小となく自身攝生上注意し少しも怠情ある可からず

若し妊婦自身の攝生法を謬り萬端粗暴の舉動あるときは自身の腹内に許多の變化ある故に苦悶を覺ゆるのみならず胎兒は著しき障害を蒙り營養不全にして生れ或は性質痴鈍となり或は半途にして流産し或は死して生まるゝ等



(4)

法 生 養 婦 妊

の恐あれば一層注意を加へざるべからず故に攝生法を左  
よ揭示して妊婦の心得とす

第一 妊婦は平常慣習せる食物を持続し猥りに變換嗜好  
すべからずと雖ども可成的消化し難き物或は脂肪に富め  
る物或は腹脹を來し易き物或は辛苦なる物は禁止すべし  
總て淡泊なる物は善とす然りと雖ども妊娠中は食慾平素  
に倍し増進するものなれども決して飽滿に至る可からず  
又少食を以て攝生法に適する意より非らず何となれば胎  
兒も亦從て多少の營養を要すればなり

飲料中尤も用ゆべきものは清水なり妊婦の好む應し平常

葡萄酒、麥酒、咖啡、茶等の稀薄なるものは少量用ゐるも妨

し總て濃厚多量なれば嚴しく禁制すべし

食料に供し無害なるものは肉類ありては牛肉、雞肉、野獸

鳩、小鳥卵類、魚肉ありては濃厚脂肪を有たざるもの野菜類

は馬鈴薯、胡蘿蔔、菠薐草、苜蓿、豌豆、蠶豆、大豆、赤豆、米、麥、稞、大根

菓實等の如き杏林、檜、梨、桃、莓、葡萄、蜜柑の類は新鮮なれば食

して妨なし乍去核實をば除去せざるべからず右より反し總

て有害に屬するもの脂肪の濃厚なるもの豕、鴨、雁、鰻、鯉、鯨

鱈、鹽漬味噌漬の野菜、物、胡麻、肉、桂、芥子、生姜、其他醋漬にて甚

しく酸味あるものは有害なり

法 育 養 兒 小

(5)

第二 妊娠の初期第二三ヶ月に至れば嘔氣或は嘔吐を發する者十中七八に達せり此痛く之れを嫌忌するも決して絶食すべからず又食するとても必ず多食すべからず少量に數回反復すべし又末期臨月に至り嘔吐腰痛下肢腫脹齒痛等は醫療を乞ふも定めて効なきこと多し故に劇痛なるも分娩と共に消退して毫も障害を殘さざれば暫時堪忍すべきを可とす

第三 妊婦は常に精神爽快ならず恰も曇天の如く鬱々として直に喜怒哀樂恐懼の情を感じ易きこと甚だし故に常に難産話危險深淵雜沓の場合に決して誘引す可らず

第四 居室身體の殊に清潔を要するか故に時々窓戸を開放して塵埃を掃除し新鮮の大氣を代謝して自由に呼吸を爲さしむること肝要なり小房雜居の室内の大氣汚穢して不潔となり健康上に害あれば群居深く慎戒せざる可らず又身體の清潔は總て健康を保護する基にして須臾も缺く可らず故に妊娠中の毎日華氏九十度乃至九十五度列氏二十六度より二十八度の溫浴に入り軀體は勿論生殖器等の殊に清淨よし其他襯衣蒲團或は臥褥の被布に至るまで屢洗清するを要す

第五 身體運動は不斷欲くべからざる要點なれば戸外を

距て或ハ曠野くわうやニ至り健全の平常ニ於けるか如く運動を營  
 ひどきは神思六情しんし ろくつやうに感動さるゝなく毎に爽快そうくわいを得血液の  
 循環食物じゆんくわんの消化を能くし夜半不眠等を來す恐れなく身心  
 をして常に平安ならしむるなり然れども運動過度に至る  
 時ハ反て疲勞し不眠を起すものなれば適宜の度を越ゆ可  
 からず假令へ運動を爲すにもせよ劇しき道路の高低或ハ  
 高山に攀よじ登り遠路數里を歩行し疾行の馬車人力車ニ乗り或  
 ハ體操中種々の行ありと雖も度外の屈伸くつしん前後轉ちゆう又は重荷  
 を負へ又烈しく笑謔しやうたつし或は舞踏ぶたうする等皆難産なんざんの基となる  
 故ニ固く警戒けいけいせざる可らず

第六 我國俗にして尤も嫌忌けんきするハ分娩ぶんべん前後の腹帯はらおびなり  
 民間傳評てんびやうするに若し之れを施し行はずんば胎兒たうじの母腹に  
 發生するや十分ニして難産なんざんの因となり安産あんざんを望むと能ハ  
 ず故に之れを施して發生を防禦すと云ふ然り而して分娩ぶんべん  
 後の腹帯はらおびたるや若し之れを設施せつしせざれば乳房ちゆうぶより湧出ゆうしゅつせ  
 んど欲する乳汁にゅうじも腹腔ふくかうに墜落ついかくして分泌機能ぶんびつきのうを失ふと云ふ  
 剩へ妊婦にんぶニ之の腹帯はらおびせしむるハ第四五ヶ月目に産婆さんばハ  
 勿論親類を擧て招聘せうへいし祝宴を開き而後施すの習慣なり實  
 に愚も亦甚しからずや

第七 衣服ハ四季氣候を異にし適宜單重すと雖ども決し

て狭小なる可からず妊婦の腹部たるや日に増し擴張する故に衣服の容易に離れ外寒を受け易ければ特又大なる襦袢股引の類を纏ひ外患を防禦すると緊要なり

第八 両便排泄の關係たるや妊婦に在りての注意を加へ整全たらしむると要點あり妊婦三四ヶ月を経て漸次子宮の肥大するに從て膀胱を壓迫して尿意を催促すると頻なり然れども其頻行に從て排泄の量少し尿意起らば決して外見を憚り堪忍す可らず又大便通利の多少の妨を受くるや必然たり故に毎朝適宜の食餌を用ゐ加ふるに一盞或は一盞半の牛乳を喫し正規の運動を營めば軀體の滋養を補

益するのみならず毎日一回の快通を得ば腹内の血液循環を整へ精神漸く爽快となる若し整全たる快通を促さず兩三日間秘結する時は直に醫師或は産婆に施療を受くべし俗人の言ひ傳へ或は賣藥等を求め一時の簡便を量ること深く禁制すべし

第九 妊婦嬰兒を自育せんと欲せば必ず乳房を保護し外傷寒胃を防禦せざる可からず故に臨月近つき至れば冷水或は焼酎を以て乳頭乳房を洗滌し軽く摩して柔軟ならしめば嬰兒哺乳すと雖も乳頭は損傷を受くるの患なし初て妊娠する者は乳頭陥没して毫も外部に頭狀を現さざる者

あり如斯者の時々指尖を唾液に濕はして牽引し或は乾角等を用へて牽出するを要す乳頭摩擦或は哺乳の爲め糜爛し或は潰瘍状となり劇痛するにあり然る時の直に醫治を乞ひ三十倍石炭酸水或はヘブラ氏軟膏或は亞鉛華膏を一日二三回外用せば數日を出でず治癒するものなり

第十 最も注意を加へ節度を制し固く守るべきの交接の關係なり妊婦健康なれば前半期は妨げあしと雖とも決して粗暴過房なる可からず又平素虚弱或は流産或は早産等の惡癖ある婦人の前後期の區別なく禁制するを要す

妊婦戶外に定期の運動を營むの外に清潔の自室あり

精神を安靜にし塵事に關せず常に産兒の衣服裁縫等も注意し臨月に至るも豫備をなすべし

小 兒 養 育 法 (13)

妊婦或は主人にして分娩期日を豫め了知せんと欲せば必ず先づ最後の經水閉止の日に七日を加へ而して全三ヶ月を除算せば其期日を知るものなり假令の七月第一日月經閉止せば七日を加入して而して全三月間過月を除算せば翌年の四月七日出産の日を預定することを得最も俗人古來より受胎後十月を経過せずんば出産すると能はずと雖とも其理無きよしもあらず然れども少しく誤解する所あり十ヶ月は即我世界の新舊曆を算して解さし者も非らず月

經の二字を載するが如く即ち月世界の十月を云ふものなり月世界の一月は即ち四週二十八日間なり受胎してより月世界の十月を経過せば即二百八十日にして大凡生誕の期日を豫定せると明了なり

妊婦將に産下せんとするに當り腰部より下腹に波及し發作間歇の陣痛を起せり其疼痛たる漸次増進せり是れ全く子宮筋纖維収縮を基き出産を催促するものあり歐米各國に於ては初産の者は陣痛發作してより平均十八時間を經再産以上の者の十二時間を費す者なり我日本人は於ては未だ其預算を確定せずと雖とも安産の者多くして難産に苦む者少し故に陣痛發作間歇時間も從て短縮なり胎兒産下し直ち後産と稱へ胎盤胞衣剝離するあり此の經過中を稱して分娩期と云ふ

陣痛の發作間歇を認むるときは直に經驗熟成の産婆に屬任し兩便の排泄を促し兼て閉清に裝置せる自室に至り蒲團被衣藁蒲團に油紙等を用ゐる惡液の滲透浸出を豫防せしめ安靜に臥せしめ分娩を待つや肝要なり室内の寒暖の四季其候を異にすと雖とも猥りも開閉して一定の溫度を變換せしむ可からず

我國俗にして外見を憚るゝ分娩時の有様なり或は閑火櫓

經の二字を載するが如く即ち月世界の十月を云ふものなり月世界の一月の即ち四週二十八日間なり受胎してより月世界の十月を經過せば即二百八十日にして大凡生誕の期日を豫定せると明了なり

妊婦將に産下せんとするに當り腰部より下腹に波及し發作間歇の陣痛を起せり其疼痛たる漸次増進せり是れ全く子宮筋纖維収縮を基き出産を催促するものあり歐米各國に於ては初産の者は陣痛發作してより平均十八時間を経再産以上の者の十二時間を費す者なり我日本人に於ては未だ其預算を確定せずと雖とも安産の者多くして難産に

苦む者少し故に陣痛發作間歇時間も從て短縮なり胎兒産下し直に後産と稱へ胎盤胞衣剝離するあり此の經過中を稱して分娩期と云ふ

陣痛の發作間歇を認むるときに直に經驗熟成の産婆に信任し兩便の排泄を促し兼て開清に装置せる自室に至り蒲團被衣藁蒲團に油紙等を用る悪液の滲透浸出を豫防せしめ安靜に臥せしめ分娩を待つや肝要なり室内の寒暖の四季其候を異にすと雖とも猥りも開閉して一定の温度を變換せしむ可からず

我國俗にして外見を憚るに分娩時の有様なり或は開火櫓

を擁し梁棟りょうとうに麻糸を掛け其糸を攀ぢ或は大人の肩胛けんかに掛り努力して恙なく出産を畢るも猶其依然として一週間を過ぐるも其位置を變せしめず兩下肢麻痺するも厭はず更に安靜安民あんせいあんみんせしむるとなし實に可笑の醜體なり斯く述べらる如く其他種々の位置に在り分娩ぶんべんするを得ると雖ども尤も輕便にして安然ならしむるは産婦左側に寝さしめ右足を前方に突出し産兒を後部に擧ぐるや便なり分娩期ぶんべんきに至らぬ温湯冷水盥産兒の襯衣襦衣しんいじゆい臥床ふしど雞卵西洋手拭臍帶まうたひを結紮する麻糸其他石鹼等の預備す可し已に後産も排出はいしゅつし畢らば産婦の衾衣きんい及周圍を悉皆交換し微温湯を

以て清潔に陰部を洗滌せんじやうし第二日より四百倍揚酸水或は百倍の石炭酸水を微温湯に混じ一日二回汚穢くわいの者を洗滌せんじやうすること緊要なり若し其部そのぶに損傷あり洗滌せんじやうに疼痛どうつうするときは醫いに就き適當の治療を受くべし而して寒威に冒されざる様温和にして安靜あんせいし臥せしむ可し  
 出産期に至り妊婦にんぶ渴かつを覺へ飲食を嗜むことあらぬ可成固形物を禁じ半流動物、清水、米羹汁、乳汁、肉羹汁、雞卵湯を用ゆべきと雖ども必ず少量を與へ多量に用ゆべからず如何となれぬ往々嘔氣おうきを發し苦痛の患あればなり其他酒類、上茶、咖啡等は精神を奮興ふんこうして害あること多し



## 産褥婦の養生法

産婦分娩を畢るや否や之れを褥婦と云ひ而して此産褥も亦全く生理的の狀態にして敢て疾病と見做すへきに非らずと雖ども妊娠中及び分娩際し變化したる母體腹部陰部の妊娠前と稍々同一に再復するまでの瑣細の變化も著しき障害を惹起し又不治の疾病を醸成する故に寧ろ一患者と做し丁寧な攝生を保護すべし而して此時に當り生兒の食物として乳汁の分泌其宜を得ば母體及び生兒の健康も從て其宜きを得るものなり

民間に産後七十五日を経過せざれば裁縫烈しき體動力役等の事業の行はざるを善習とせり實に尤ある傳語なり分娩後凡三ヶ月を経ざれば母體の腹内若しくは陰部の變狀も舊位に復せざる故に休止し亦交接も禁制すべし

産褥婦は最も清潔を要す先づ陰部及び其近傍を能く清洗し次で濕潤汚穢せる褥衣の乾燥清潔ある衣服と交換すべし尤も褥婦の位置は地平より仰臥せしむるを最も良とす又時々側臥するも妨なし日本の弊風にして褥婦は必ず坐位に在らしめ平臥を許さざるは惡習なり産後十四日より至るまでの連綿平臥し身體を安靜に保つべし尤も陰部の最初

二三回の微温湯を以て洗滌し次回よりの毎日三回相應の薬品百倍の石炭酸水或は四百倍の揚酸水に少しく温湯を加へ腔内を洗滌するを良とす

産褥室の可及的廣大にして且清潔常に新鮮の空氣を蓄へ通常攝氏十九度乃至二十度の温に保ち時々窓戸を開放し新陳空氣を代謝するも褥婦の窓風の冷氣も遭遇せざる様注意すべし

産褥期に於て大小便通利の平常に復せざるとあり小便の如きは褥婦飲料の多少或は發汗等に關し減少することあるも往々難産も遭遇するもの、如きは多量膀胱内に蓄積

し更なる尿意を起さざるとあり如此時の醫或は産婆も依て晝夜三四回導尿管(カテーテル)を以て排泄すべし大便は分

娩後三四日間秘結するの通常なり然れとも第三日に至れば灌腸等を施し軽く便通を取ると緊要なるも起立せしめず臥床中も於て爲さしむべし

妊婦流産或は早産の癖あり或は誤て流産早産するも必ず通常正規の分娩を畢りたる者と同視し前述の攝生法を怠る可からず元來如斯ことは多く子宮病も原因す故に其療法を施さざれば病依然として治癒するとなき漸く重症に陥り健康を害するのみならず次回の妊娠も亦慣習の爲め

流産するか或は不妊症となりて終には生児を擧げ一生の  
歡樂を覺ゆるなし慎まざるべからず

産褥中子宮より分泌排泄するものあり之れを惡露と云ふ  
第一日にハ略血液或は凝血なるも漸次稀薄とあり第五日  
後より大概膿状となり三四週間も經て止む一種の臭氣あ  
れども腐敗性臭氣或は糞臭は帶びず若し甚しき臭氣を放  
ち或ハ遽ニ分泌止み或は増劇なるときハ疾病の兆なれば  
恐るべし忽にす可らず

褥婦の食養に就ては格別掲載する規則なしと雖ども常に  
習慣する淡白の食餌を撰み少量に屢々用ゐる決して過食飽滿  
に至る可からず

分娩後一週間を経ば日々數回褥床を離徐々に室内を運動す  
べし運動後は直ニ褥床ニ就き全身を安靜に保つべし高低  
の昇降又椅子等に腰を懸くるハ未だ腹内陰部の變狀舊位  
に復せざるを以て害あり天氣晴朗温暖にして幸ひ家屋周  
圍平地なるときは第十四日より戶外ニ出で遊歩するに妨  
なしと雖ども二階或ハ土壤の高低は二三週の後を過ぎざ  
れば害あり

## 生兒取扱法

入浴 兒生誕せば直に臍部せいぶより三寸程の距離に於て麻糸を以て臍帶ほそひの二ヶ所を結紮し其中央にて分斷せば決して雙方出血の恐なく而して後ち胎盤剝離たいばんはくりに着手す可し其胎盤異變なく分離せば生兒を列氏二十八度攝氏ノ三十五度の温浴中よ入れ嬰兒えいどの頭部の掌上に置き至て柔軟なる海綿かいめんを以て血液泡皮垢等を清潔せんじょうに洗浄すへし若し皮垢頗る過剰なるときは雞卵或の脂肪とらを塗擦とせば容易に除去するものあり頭部顔面の如きの別べつに清淨せいじょうなる温湯を以て洗ひ清布を

指頭に巻き口内くちに挿入し付着する粘液ねんえきを除去し眼の如きは外隅より内隅に拭く可し隅すみに拭く者多しは内隅より外由ゆを知らざる常人も辨知する如く兒こに至て皮膚薄弱柔軟ひよくはくじやくじょうなんの所ところ爲なりなりなれば猥りわうり石鹼せきけんを塗り海綿かいめんにて磨擦まささするを禁制す皮垢十分除く能よざるも決して無害のものなれば浴後は直に温和の木綿もめん譬たとへ西洋手拭せいようてふきの如きものに纏まとひ全身しんしんの濕潤しつじゆんを拭き方二寸程の木綿に脂肪じつぷを注ぎ臍帶せいたいを巻き上部に向け軽く三回位の縦帶ほうたいを施し全く剝離はくりするまで毎日交換すべし四五日間を経ると雖なども往々むかむか剝離はくりせざるときはは尙前なほぜん述の如き木綿に脂肪じつぷを注ぎ今一層を重ね臍帶せいたいの分離ぶんりを待

つべし其地風に由り鞣酸を臍帯に敷布に換うるに紙を以てせり  
 嬰兒えいじに着衣せしめんと欲するときには諸關節くわんせつの運轉及肛門こうもんを點檢てんけんし若し運動に傷害あるか或は閉塞へいそく等の患あるときは直に醫に托し適宜の所置を受くべし

洋人ケーベル氏は二ケ年間三百八十兒を擧げしに九十  
 九兒の産婆の不注意に據り温浴の熱度定度に過ぎ牙關緊がくわんきん  
 急症ききしやうに罹りて斃れしと洋曆千八百八十年に説明せり故に  
 初生兒の入浴の尤も注意を加へざるべからず

嬰兒の衣服の極めて温暖ならしむるを要すと雖も爲す小  
 狹窄迫きんざくにして呼吸四肢の運動の毫も障害なく自在ならし

ひべし衣服の各國其土風を異にし一定ならざれども通常  
 襯衣しんい上着襪わく襪わくより成るものなり頭蓋の可及的輕軟けいなんの頭巾  
 を被らしひべし

養育中最も注意を加ふるに全身清潔法にして四季を論せ  
 ず毎日定度に入湯せしめ腋窩あきわ股脚あしこ肛圍こうゐ等の特別に洗ふべ  
 し其他朝夕清水を清布に浸し指頭を以て口内に挿入し乳  
 汁の附着するを拭ふべし若し怠るとあるときは乳汁口内  
 に於て腐敗に傾き加答兒かたごを發し往々鷺口瘡がくそうを發し哺乳困  
 難となり追々衰弱して斃るゝもの尠しとせず

乳汁 夫れ乳汁の造化の賜にして産母ありて嬰兒えいじを養

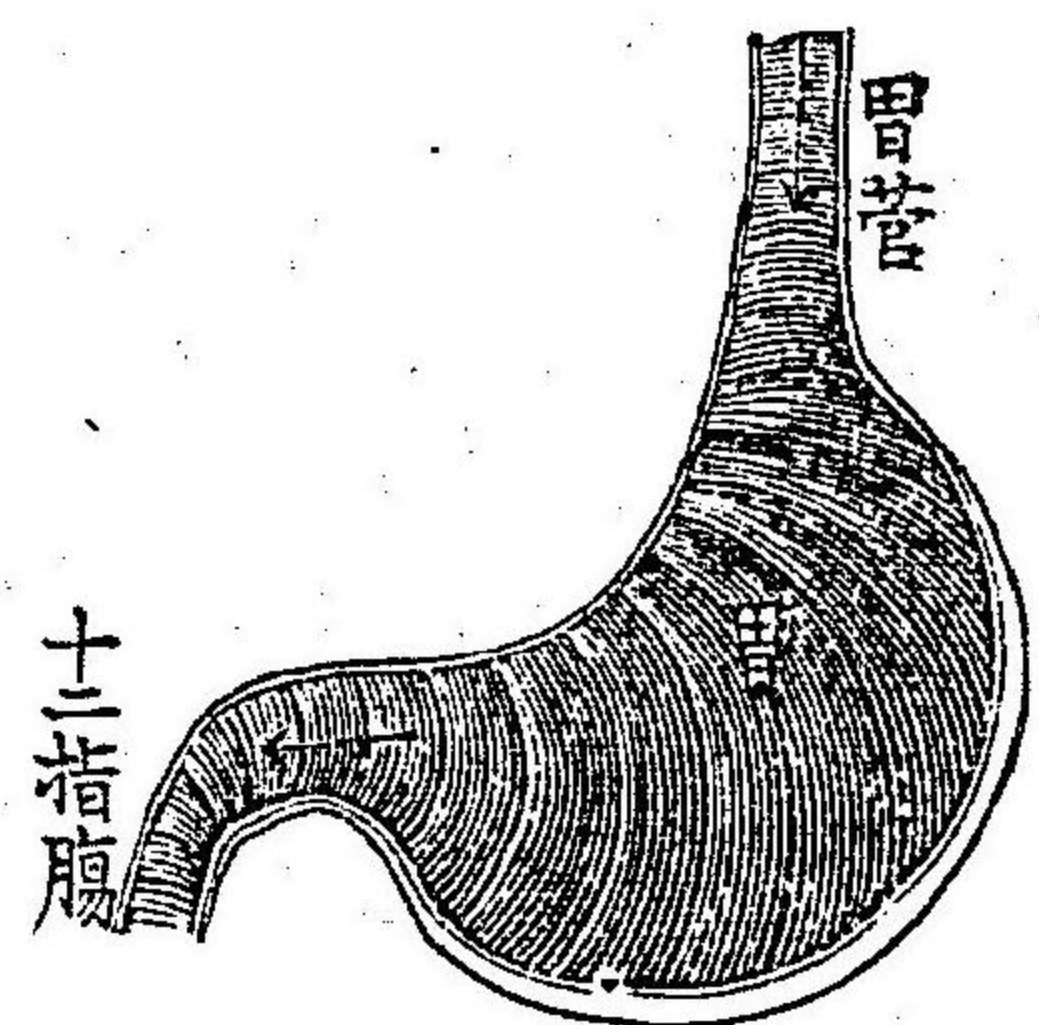
育する者なり凡人獸類と雖も兒母體を離るれば乳に非ざれば生存すると能はず兒世に出でざれば乳の生ずるとなく兒産下して乳汁又滴出す之れを哺して兒益肥健之を與へて母體に些々たる病苦ありども爲めに精神活潑を覺へ全治すと兩益と云ふ可きなり然るに歐洲富貴の家においては一兒分娩せば直に乳母を雇傭し哺乳せしむるの習慣となる故に性質符合せず往々疾病を生し易し母體屢々分娩し哺乳せしむる能はざる時は乳母を雇用するも不得止となり決して最初より授乳を惜み將來に患を貽すの恐なからしむ可し

母體にして我が兒に哺乳せしむるの自然の良能なり之を哺して兒漸く健然之を授けて母體漸く爽快を得親子の情愛日に深く生長の後其厚恩を心頭懸けざるものなし産下兩三日後よりの乳房に乳汁溢出し嬰兒の養育も供す他種々の滋養品ありと雖ども乳齒發生後までの乳汁の外更よ與ふべからず然りと雖ども母體勞核肺勞を煤毒腺病癩癩病神經貧血症或い遊怠放逸等のものにありては病毒醜習を遺傳し生長の後と雖ども必ず肥健活潑ならず充分の世涯を營むと難とす故に如此障害あるときは乳母を備ひ清潔の授乳を爲さしむると肝要なり



小兒胃腑

第 壹 圖



直に満腹せり依て屢少量を與ふるを  
 良とす若し一時に多量を與ふるとき  
 の容易く腸胃を害ひ嘔吐下痢症を發  
 するなり故に大概初月二月比に左  
 右乳房交換して一時或は一時半毎に

一回の左右交換は待は乳汁 三四月比には二時乃至二時半毎に一  
 回六七月比より毎三四時より一回なるを定規とせり嬰兒  
 生長するに従て内臟腑就中管狀の胃腑も漸次大人の胃形  
 に變じ片乳にて到底不足することあり又小兒の情慾顯  
 れ片乳にて不満足と見認むるときは飲量の模様も推考し

重て授くるも又必要なるべし如此定度あれども毎夜臨臥  
 の前より必ず一回哺乳せしめ翌朝までは授けざるべし若  
 し夜半屢目を覺し泣叫するときは抱起し多少運動して再  
 び安眠を催すべし

母親たる者定時哺乳せしむるの際に當り不如意にて憤怒  
 せしむるとあらば其害必ず嬰兒に及び爲めは搗搦を發し  
 危険に至ると少しとせず故に養育中は可及的精神を慰め  
 常に爽快なるを旨とす  
 嬰兒哺乳せは必ず安眠するの癖あり睡眠中體内の諸臟腑  
 も漸く整成し滋養品を消化するを得故に哺乳せは必ず眠



り眠れば必ず嘔せんとす故に嘔乳の度を定むると必要なり

小兒臥床の形狀は歐米各國何れも常々使用する寢臺の稍々小なる者にして頭部に向て少しく斜高し四足に車の設あり自在な位置を轉移し便利なれども又日本通常の蒲團の如きも至て輕便にして何れなりとも移し易く、其便寢臺に代るとなし所々の地方にありての晝夜の別なく小兒を籬籠イヅミキに入こる飯の冷へざると云ふ者も入れ數時間其儘よし大小便しんじおんは浸潤され不潔を來し努力の爲め鼠蹊部に肝腸たつちやうを見る之れ不潔脱腸の弊害を見るのみならず全身運動自由ならざるを以て持用すべからざるを良とし全く下流社會の所爲にして母親の亭主と共に糊口の道に従事し傅婢をも備するの資力なく故に斯く籬籠を以て養育の手數を省減するものなるべし

由ならざるを以て持用すべからざるを良とし全く下流社會の所爲にして母親の亭主と共に糊口の道に従事し傅婢をも備するの資力なく故に斯く籬籠を以て養育の手數を省減するものなるべし

兒啼泣するも必ず引乳するのみにあらず衣裳窘迫にて四肢自在あらず或は過飲の後胃痛を發するか或は虱蚤の類の刺衝ししやうよて痒痛やまつらを覺ゆるか或は他物類類針か觸るゝか或は空腹なるか或は兩便通利を報するか其啼泣原因を探定し相當の所置を爲すべし我國風の如きは未だ此感あらず泣けば直に乳房を口内に挿入し過飲の余り胃弱症にて疼痛を發



夫れ父母の強弱の其子の強弱に關係する者なれば苟も兒を健康に生長せしめんと欲せば先づ父母自己の身體を強壯鍛鍊すべし獨り怪む彼の數人の愛子を失ひ如何して一子を成長せしめんと常に希望に切なる婦女子にして尙衛生を忽よし養生を怠り其分娩の後に至りて始て省る所あるが如く醫師も走りて育兒の方法を尋ね神佛に至て小兒の無事を祈るも時既に遅れたりと云ふべし神佛も恐らく之れを救治する能はず醫師も又其方法も苦むべし故も母となるもの常も品行を慎しみ衛生を怠らす其身を健全に鍛鍊し以て健康強壯の兒を擧げられんとを望む父と

あるものも亦然り然れども兒童の生長したる後ち身體の構造を改良せんと欲するも頗る困難の事業にして殆んど人工の及ばざる處ありとす故も身體の構造を改良せんと欲せば兒童の生後直に之を行ふべし決して之れに遅緩するとなかれ然らば如何して可ならん乎抑も此問も答へんにい更に實驗も問はざる可からず今其答ふる處に據れば日本下等社會の兒童の其生後より嘗て醫師の手を假らず又藥餌の味を知らず而かも尙健全強壯に生長するを見る乃ち此れ下等社會の兒童が受くる處の養育法は蓋し自然其法を得其宜しきに適する善良の滋養及新鮮の大氣を利

得するま在り

善良の滋養じゅやうとは則ち天與の母乳にゅうにゅうにして其兒童發育えいさくに影響する實じつ意外いがいも出づるものなり願ふに日本にて下等社會兒童死亡の平均へいきんも中等以上の社會より寡わづかき所以ゆゑのもの其原因固かたより數多あるべしと雖なほとも要するに下等社會の兒童は常に母乳を以て養育せらるゝに由るものゝ如し歐洲に於ては彼の天與の母乳を與へず「メーメル」白雪香若く粥かきの類を云ふを以て兒童を養育する所あり而して其兒童の生長如何を觀るに死去極めて多く出生兒百に付平均四十人餘の割合なり斯く恐るべき現象げんじょうハ歐洲までも獨り下

等社會に就て目撃もくげきする所なり

新鮮空氣 我日本の兒童は生時より新鮮の空氣を呼吸すること歐洲の兒童よりも遙とほ多量たうりやうかり家屋の構造かうぞう疎質そしつなると煖爐だんろを設置せいちせざる等より而して其事實や身分の愈々下等なるに従て益々其然るを信す身分賤しく生計せいけいも富まざる社會のものは常に家外に生活し身體自然に外氣がいきに感かん觸しよくし時候に慣るゝを以て之に犯かさるゝ等の患大だ稀まれあり然るに中等以上の社會は其兒童を手の及ぶ外氣を保護し且之れに數重の衣服を纏まとひ管くだに其四肢の運動を妨さまたぐるのみならず其胸廓きょうかくの働をも壓縮あつしよくせしむるに至る何ぞ其れ

思ひざるの甚だしきや元來日本の氣候は四時共に宜しく寒暑雨ながら甚だしからず春秋に別なく冬夏を問はず兒童を戶外に逍遙せしめ庭前も遊嬉せしむるも決して其害を受くるとなく勉めて外氣も慣れしむるに至りて其健全を保ち強壯も生長するの期して待つべきのみ小兒盛に發育せんとするに當り尤も其障害を興へらるゝの即ち傅婢も脊負せしむる點なり何とあれば古來よりの弊習よして長紐(男帶の類)を以て上の兒童の兩腋下に回し下の兩膝膕も及し傅婢の脊部も固く附着せしめ其紐端の前にて固結し不斷戶外も出て運動或は小傅婢歌もて慰め一

時弊害を來さるも成長の後大に其損乏を見るところありし故も可成的發育隆盛の間の胸廓及四肢の運動の自在ならしむと緊要なり

傅婢の處爲たるや母親たる者小兒一體に關し萬事注意を加ふるの大任あるも漸く數子を擧ぐるに及で傅婢を備し兒の親しき友となし俱に遊嬉して飲食寢起に至るまで母親に換て萬端注意すべき重任を受くる者あれば性質順良にして行正しく恥を知り尋常の義理も通じ容貌温和にして堪忍ある女を撰むべし

種痘の法 抑も接種の良法たるや今を去る七十有餘年英

國醫學士シエンチル氏初て牛痘を人間に接種し天然痘の慘毒を感染するを防禦するとを發明せり故に萬國に於ても其大勳を賞賛し人命の幸福を得る實に筆尖に記し謝するに堪へざるなり

小兒種痘の時たるや春夏秋冬寒暖晴雨男女強弱を論せず分娩後三月より十二月間として春秋の二期を最も良とす兒健康にわらず腺病質疥癬痢病腸胃加荅流症に罹りし者は其病瘥を待て然後接種すべし生後三月より十二月に至る左右上膊外側に三四個を接す一歳より二歳に至る六七日漸次年齢の長するに従て其數を増加す之れ全く感不感

に基くものあり種痘畢るの後の小兒に柔軟清潔の衾衣を纏ひ摩擦搔破を防ぐべし經過中種々の病苦を訴ふるも醫藥を要するに足らず只だ哺乳或は三飯の節度を制し局部の冷罨法位にて可なり今予茲に種痘經過を記載せし第一日は接種の鍼痕未だ消退せず周圍に向て少く赤色を呈す稍暫くあつて赤色消散し鍼の小痕を見るのみ三日局所は再び赤色を發し微く皮膚に突起す恰も蚤咬赤痕の如く粟粒形大なり五六日に至れば粟粒大の種漸く膨脹して中央稍凹て疱中に透明の稀液を含む其形狀全く圓なるあり或は橢圓なるあり七八日に及ばば痘疱大に腫起して焮衝し

周圍に紅暈を匝らし少く悪寒發熱苦悶を覺ゆるも腫脹追々増大するに従て前症更に一層を加ふ依て往々腋下腺炎を續發するあり或は神經過敏の兒にありては搗搦瘰癧を發するあり九十日頃に至れば痘疱の稀液豐熟して濃漿に化し疱中み滿ち將に破裂せんとす其形狀大凡圓にして高さ一分經一分半位なり周圍の紅暈も漸々消退して痘心に収靨の状態を見る十一十二日に至れば前症稍消解し疱中の液も黄色に變し中心より乾固して褐色に變ず其痂は堅厚光澤となり再び黑色となる半月を経て落痂し局所に痘痕を遺すも終身顯然として存班せり

再種痘の説 兒童既に一回の種痘を畢ると雖とも生長するに従ひ五年或は六年毎に再種痘を施すや肝要なり然らざれば天然痘流行のときは動もすれば其慘毒を感受し健康美玉の體格も一朝變じて醜顔を遺すのみならず生命の短縮して鬼籍に登るも又少しとせず豈痛歎の至りならずや

## 乳母撰定法

乳母は母親に代り嬰兒を養育するの重任を帯ぶる者なれば其嬰兒に於けるや必疎濶の心を生ぜず乳母は兒を見るに恰も我實子に於けるが如く兒は又乳母を視ると我實母に於けるが如くなるべし故に乳母の交換は嬰兒の一身に不良なり何となれば乳母を交換すると茲に數あれば其養育を受くるの日淺きが爲め彼之れを慈み此れ彼を慕ふの情自ら薄く遂に隔離の念を生ずるに至るべければなり實母薄弱疾患其外種々の事情あり自育する能はざるとき

は乳母を撰擇するや必要あり之れ都府市街村落に至り其状態を異にするを以て甚だ便難なり故に左に數條を陳述して撰者の注意に供す

第一 乳母の羸瘦肥滿ならず健康にして筋骨逞しく中肉よして顔貌の鮮明眼中の清涼口唇は丹紅齒は清白頸部に水脈線の肥大生殖器に潰瘍を認めず乳房の好實にして脂肪に過多ならず瘡傷なく彈力過度にして指壓すれば乳汁射出す其乳白色にして稀薄ならざるを良とす若し乳母の體格構造は細長あるか或は肥滿に過ぐれ齒齦蒼白藍色にて膿膿或は出血し易ければ口内臭氣を放ち貧血にて消化



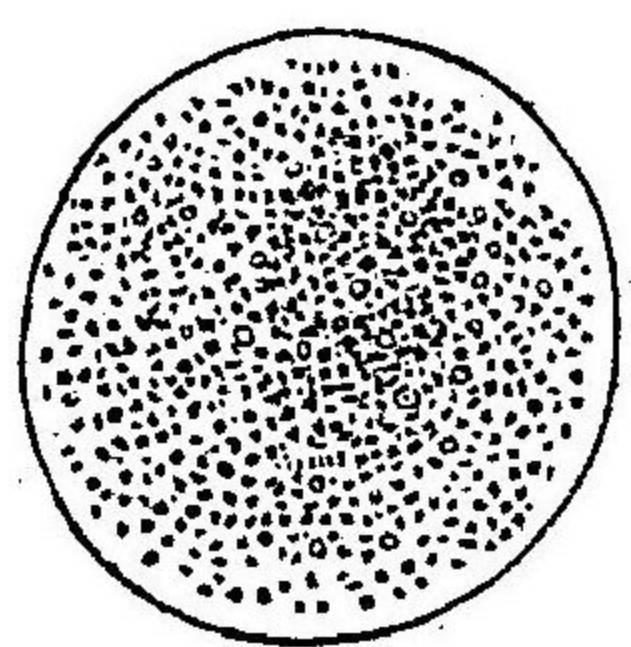
機能に乏しく加ふるよ自體は勿論兩親姉妹兄弟親戚等肺結核症梅毒神經病總て遺傳性病毒あるときハ謝絶すべし

第二 年齢ハ二十歳より三十歳までとし略實母の年齢に彷彿たる者を賞用せり縱合同年齢なるも既に三十歳以上を越ゆる者の撰定すべからず其理由や三十歳以上達する者は盛熾の新陳代謝の機能を退きしものにして爲に十分の乳汁排泄を起さざる故なり又二十歳未滿の乳婦は多分初産にして育兒の取扱法を辨へざれば適せず尤も相當年齢の乳母は己よ一二子を擧げ自宅に於て健康に養育せば育兒の道理を辨知し大に裨益あるべし

第三 乳汁の新陳ハ實母乳母の分娩時に關す故よ雙母畧同時日に出産する者或に己に二三周若しくは四五周間早きを良とす如何となれハ此周内よハ充分多量の乳汁を排泄し稍減少するを以て嬰兒も適す

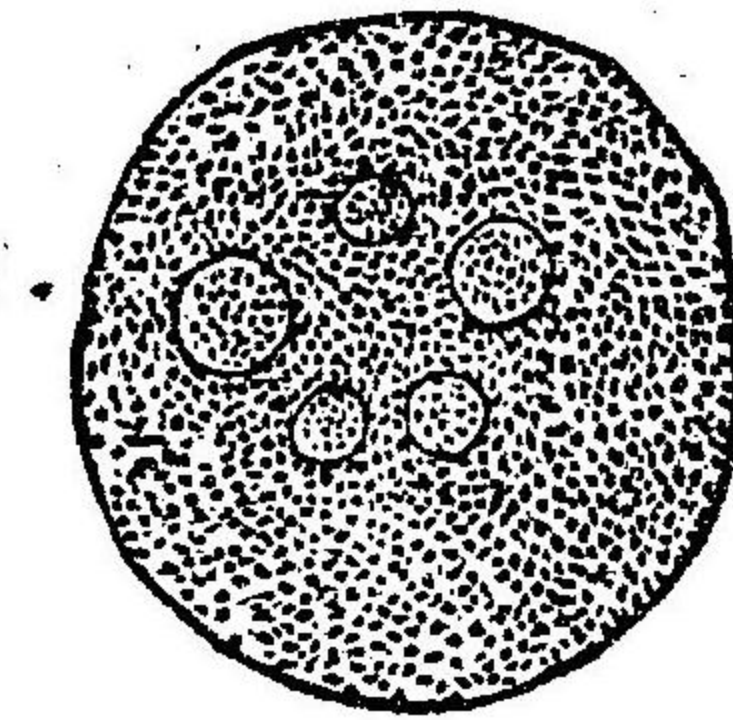
乳球集合の圖

第二圖



第四 乳汁の善惡精粗を吟味せんと欲せハ甘味を識り試験紙を投ヒアルカリ性或ハ酸性の反應を顯せば不可なり反應を顯せば不可あり中和性を可とす檢乳器即顯微鏡下よ照し乳球の集合し初乳球(コロストルム球)の散在せざるを良

初乳球の圖



とす又一小玻璃瓶中に少許の乳汁を注ぎ凝結沈澱を惡質とし容易に消散する良質とす而して其乳母たるや多少の日子を授乳せしむるとき其兒の容貌を一視し乳汁の良否を判決すると易し故に實子滋養十分なれば善良とし營養不給なれば必ず惡兆なり

第五 乳母の自室身體衣服の清潔を主とし可及的滋養物を食せしめ適度運動を怠らざるときは新陳代謝を催進し充分乳汁の分泌を促すにあり然れども平素僻陬の田舎に

あり粗食に慣習せる者は滋養品たりとも猥らふ變換音むべからず何となれば爲めに乳汁分泌を減少するの恐れありればなり

第六 乳母の田舎の者を撰擇し稟賦靜和健康篤實あるを要す性質驕慢放逸の者或は狡猾怠惰等の者は不可なり一説に田舎の乳婦は都府市街の交際及世活上り堪へず郷里を慕ふの情念常に斷へざるとあり依て劣れりと云ふ

第七 産後經水再來せし乳母は勿論己に撰定授乳せしむる乳母たりとも月經再發せば爲めに乳汁變質を起し嬰兒に害あり實母たる者は月經の有無に注意を加ふるや大任

にして宜しく所分せずんばあるべからず然れども己に七八ヶ月を経歴し縦令月経再來を見るも多分の障害を及すと少し故も乳母を交換するに至らず唯經行中哺乳せしむることを禁止し交ふるに滋養流動物を以てすべし  
 古來より我邦國も於て乳母撰定法の設け且行はるゝとな  
 く故に乳母を雇用するも健康虚弱の論あく一時の便宜より將來も不良結果を來すも不尠可成的前述の撰定法に注意し壯健無病の乳母を備用すると肝要なり

### 人工養育法

實母たる者疾病薄弱にして授乳する能はざるか或は種々事情に據り自育するを得ざるか或は貧乏として乳母を雇招すると能はざるか或は適當の乳母なき時の交ふるに種々の食物を以てすると雖とも生誕後乳齒發生整全なるまでの獸汗を哺乳せしめ婦乳に代償し常に注意を加ふるや肝要なり故に此に諸乳の分拆表を掲示し獸乳の婦乳に最も類似するを示す

乳成分—人乳百分中—驢乳百分中—山羊乳—羊乳—牛乳

|     |       |       |       |       |       |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|
| 蛋白質 | 二、五〇  | 一、八二  | 四、〇二  | 四、五〇  | 四、四八  |
| 脂肪質 | 五、一八  | 〇、一一  | 三、三二  | 四、二〇  | 三、一三  |
| 糖 質 | 六、五二  | 六、〇八  | 五、二八  | 五、〇〇  | 四、七七  |
| 鹽 類 | 六、五二  | 〇、三四  | 〇、五八  | 〇、六八  | 〇、六八  |
| 水 分 | 八五、八〇 | 九一、六五 | 八六、八〇 | 八五、六二 | 八五、六二 |

此の四種の中何れを優れりとし何れを劣れりとなさずと雖ども驢山羊の三乳は學說上より論ずれば人乳に稍類似するを以て育兒法に適當あれども至て稀なる者にて軽く得哺乳せしむること難し牛乳は各人諒知する如く世上一般播布し都府田舎の別なく得易ければ通常牛乳を以て

養育すると賞用せり

初乳の生兒腸中のメコニウム通痢も有効あるも實母授乳すること能はざるときは小兒散大黃舍利別マンナ越幾斯或の薬店販賣する五香湯も又不得止なり

驢山羊の三乳掌中に在り自在育兒するを得るときは生後十日間の熱湯と乳汁當分に少量白糖を混合し其定度の攝氏三十五六度にして授乳せしむべし若し定度に至らざるときは哺乳器と共に温湯中へ挿入し定度より昇登せしむべし産後十日以外一ヶ月までは乳汁二分に熱湯一分を混し已よ全一ヶ月を経歴せば熱湯を混するに及ばず乳汁純粹よ

て足れりとする

牛乳の婦乳に比すれば蛋白質に剩過し少く濃厚なれば生後一ヶ月間は牛乳熱湯各等分に稀釋し第二ヶ月よりの稍濃厚にして牛乳四分の三と熱湯四分の一を和合し第五ヶ月より更に混和せず純乳を與ふるを法とす然れども毎回少量の白糖或は乳糖を和し甘味を與へ母乳の常度に類似する攝氏三十五六度と温昇すべし

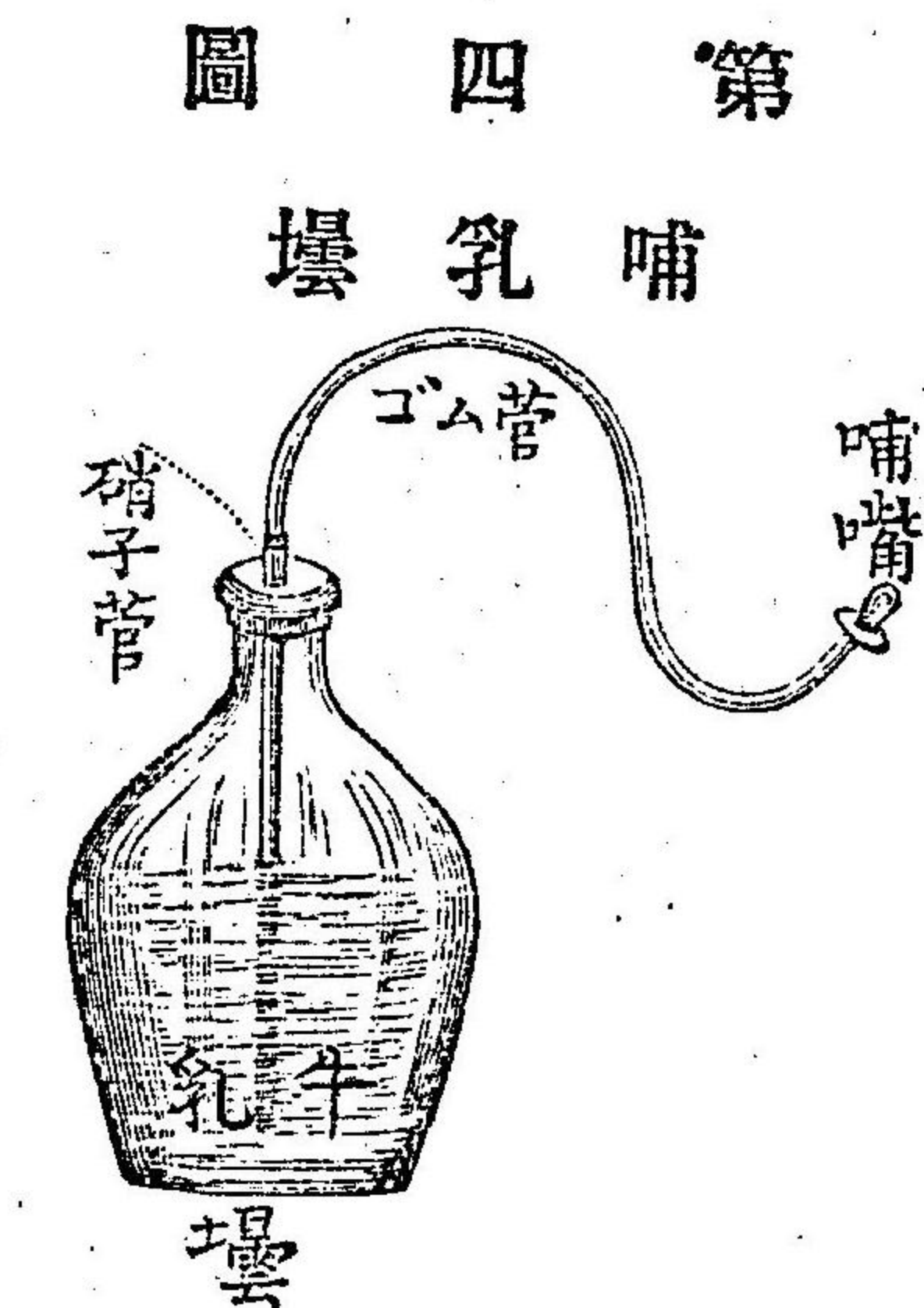
牛乳は都府市街村落に至るまで其搬賣便を得ざる處なし然り而して都府の牛乳たる飲水其他往々種々の混和物あり爲めに健康の育兒すら害毒を蒙ると不尠故と定時純良

の牛乳を得んと欲せば必ず田舎の販賣人に命し常と一頭を定め清潔を主とし滋養物を授與し飼養するとき其乳質遙に優れりとする而して其一頭より搾り未だ温度を失ひざる新鮮を最良とす必ず數頭より搾り取互に混合せは動もすれば養牛の病に罹るとあり病乳を混ざるの恐ある故に深く嫌ふべきとあり

牛乳は婦乳の如く通常中和性なれども夏時に於ては容易に腐敗に傾き酸性を帯ひ易し又新陳の眞偽明瞭ならざるときは一回温度を與ふるか或は重碳酸曹達或は炭酸石灰を少しく調和し酸味を防止し而して用ゆべし若し認て然

からざれば哺乳の爲め腸胃を損傷し腹痛吐瀉を發し危篤に陥るべし

人工養育法に於て育兒するも母乳にて養ふも其理一なれば必ず授乳定時を極め妄り過飲せしむべからず牛乳を哺乳せしむるに第四圖を示すが如く一の哺乳壺を用ゆるを良とす



此の壺は玻璃瓶中硝子管を挿入し外部の管孔を護謨管と通ず護謨管端は即哺乳嘴として恰も婦人の乳頭と類

する如くゴム製或は象牙製角製を好とす

嬰兒哺乳の分量と度数并に消化機能の強弱并に日月年齢に従ひ其等差あるも前述する稀釋法に従ひ又た實母授乳の部も論載する如く未だ胃腑も其形整全せず薄弱にして食餌に慣れざる故も満腹飽飲せしめんより寧ろ少量づゝ數回哺乳せしめ腸胃も腸害の恐れなからしむべし然れども嬰兒の生育に従ひ且つ已に一ヶ月も歴ば秩然哺乳時間を定め三四時間毎に大凡五勺を與へ充分と見認るときは斷然除去し而して白絹或は白木綿を清水に浸し指頭を以て口内に挿入し清潔に拭くべし哺乳畢れば其壺は直に水中

に投じ就中管中を清潔に洗淨するを要すれば可成的二層を準備し交換代用するを良とす

生後八九ヶ月を経ば上下顎に切齒の發生を見る此の期に至れば胃腑形状も整頓し食物に堪へ易ければ少しく哺乳も増進し或ハ半流動物粥飴葛湯米羹汁の類を與へ漸々他食に移る様習慣せしむべし

牛乳も種々調和物あり生兒に有害を與ふるか極めて不便の地よして生乳を哺せしむると能はざるか或ハ生兒發育不全よて生乳に堪へざるときは街頭販賣するコンデンスミルク濃稠牛乳を最良とす此牛乳ハ歐洲シワイツ國産に

て古來より製造隆盛よして歐米各國へ販賣し人工育兒に最も緊要貴重品の品なり其良品ハ白色濃稠よして舌上よ溶解するも更よ凝固物を認めず之れに反して其粗品たるや黄色舌上に凝固物を貽す之れ或ハ糖塊ならん濃稠乳の稀釋法最初ハ一食匙一五、〇瓦即四匁よ温湯四倍を加へ漸く兒成長するに従て水量を減じ濃厚なるを與ふべし

リービク氏乳兒煎汁チステル氏小兒粉の如きは學說上及び經驗上乳汁も稍類似するを以て代用品となし甚だ賞賛せらるゝも本國に稀なるを以て茲に論せず

肉羹汁かんじゅう一合を得んと欲せば牛肉或は鶏肉五十匁を二時間程冷水一合中へ浸し然して文火を以て緩々二三時間煎出し瀘布を以て其沈渣を除去し適宜食鹽砂糖雞卵牛乳米麥粉を和し用ゆべし又は酒精中麥酒或は葡萄酒の如き胃腸衰弱して牛乳に堪へざる者には少しく白糖を加へ甘味を附し消化の機能を助けしむべし

山慈姑二三匁中に冷水少しく滴し混和せしめ而して一合程熱湯を注ぎ暫時煎し適宜食鹽砂糖牛乳等を混合し服せしむ

人工養育法に於ても實母乳母を養はるゝ如く寢室襪衣襪

衣は常々清潔を要す身體の毎朝哺乳前攝氏三十六度の温湯に入浴せしむべし兒至て薄弱なるどきの毎日二回宛入浴せしめ新陳代謝の機能を催すあり



## 乳齒發生ヨリ學齡期ニ至ル 養生法

食物 小兒乳齒發生して追々他食に變遷するを習慣せしめ漸く母體を離るゝに及で坐頭歩行を試みんと欲するを習ひしめ母親たる者は毫も注意を怠たるべからざるの重任なり

乳齒の出揃は生後全二ヶ年を経ざれば盡く發生するとなし故に最初切齒上下よ二三葉顯出する時期よ當て胃腑の形狀も殆んど整頓し他食よ堪ゆへきと雖ども決して固形物は禁じ大概半流動物の食物を製し時々交換して與ふべし

米羹汁麥羹汁其他粥の如き適宜砂糖食鹽醬油等よて味を附し與ふべし又雞卵等を調和するも可なり  
山慈姑或は馬鈴薯の粉二三匁に水少しく注ぎ熱湯一合位を加へ牛乳砂糖食鹽の類を調和し用ふべし  
小麥粉四匁程よ少しく水を加へ練合して後ち一合の熱湯を注ぎ混和せしめ六七分間煎じ後ち清布を以て濾し牛乳食鹽砂糖を以て其味を與ふるときは適宜の食物なるべし  
少量の蒸餅を細碎し熱湯を注ぎ砂糖食鹽醬油を調和すれ

ば適宜の食物たるべし  
 肉羹汁は精肉牛肉一斤を細に切り三合の冷水に浸し二時間程も経過せる比文火を以て緩々二三時間も煮後ち清布を以て其渣を濾取し適宜に用ふべし  
 半熟の鶏卵をも蒸餅と交せ軟熟にして用ふるも妨げなし  
 小兒漸次成育に従ひ年齢の多少に據り食物にも數種の善惡あり調理法も數種功拙あり今歐米風に育兒せんと欲せば蒸餅獸肉鳥肉を基礎とし少しく種々の野菜を用ふるも調理法は常人には難し又日本風にして養育せんと欲するときは古來の習慣にして米麥に基き魚肉鳥肉野菜等を

専ら使用し時々獸肉をも用ひ調理法の如きは簡便なるもの、如し故に日本全國人民にして洋和の食物に生活する者を熟考するに貴顯の位置に於て少しもあるへく永年洋行し該國の食物に十分慣習せし者と雖ども歸朝の後に至ては舊食を復する者多し方今の人種にして我小兒を洋食風に育んと欲せば先づ両親より洋食に改良せざるべからず何となれば小兒の両親の所爲なれば必ず善良なりと信用するものなれば小兒一箇も洋食を進め自身等の勝手の食物を喫するの甚だ養育上も於ても不都合且困難なるべし

食物は西洋風もせよ或ハ古來習慣しらくわんの日本風にもせよ小兒年齢の多少なるに應シ消化の難易を辨へ分量を加減かげんし必ず一定時を定め毎日三回となすべし

小兒漸く成育するに及で才智も増進さうしんし少しく良否を辨別べんべつするときは飲食物に於て二三の慎戒しんかいあり屢々しばしば懇々こんこん教示けうじすべし即ち

第一 暴食すべからざると

第二 飲食物は必ず緩々ゆるく用ゐると

第三 程能く咀嚼そしやくし急に嚙下かみかすべからざると

第四 三餐の外は菓子類と雖ども猥りみだらと與ふべからざると

と

若し両親の寵愛に溺れ種々他物を與ふるか或ハ暴食せうじやくするも更に其善惡を顧みざるか或ハ乳母又傅婢ふひの如きも放任し養育も辨へず他物を與るとき胃腑容易に衰弱を來し吐瀉どしゃ等を發し苦しむとあるべし

運動 既に前條に説く如く小兒ハ新鮮の空氣を呼吸し母體の乳汁に養育せらるゝものは眞の幸福なり漸く齡期二三年に達し歩動を試み母躰を離るゝに至ては眞性篤實しんせいとくじつなる傅婢ふひに托すべし小兒は毫も靜謐せいひつにせず家に在れば種々の玩弄物を以て慰み然からざれば不斷ふだん戶外に出で或は馳

せ回り走る等雜戯の運動の獨り其足の力を強ふするのみ  
 あり又其全身則胸廓心臓及肺臓の働を強ふするもの  
 とす何となれば人體は活潑なる運動に依て呼吸自から深  
 大とあり心臓の收縮愈々烈しく新陳代謝活潑に消化能く  
 調ひ食慾愈々善良に至るべし然らば身體機關悉く其運轉を  
 逞ふし發育亦從て其宜しきを得るの毫も疑を容れず然る  
 に彼の貴重なる運動を勉めず終日脊負ひれ若しくは懷  
 に抱かれ若しくは室内に止め常に靜謐なる遊嬉のみに放  
 任するときの小兒の遂に快樂の眞味を知らず豈に不幸の  
 至りならずや余謂らく我國上流社會にては小兒の寵愛に

溺れ最も勉むべき運動を怠り且之れを省さるものゝ如し  
 故に小兒は骨格なり筋肉あり生來孱弱虚薄にして決して  
 充分健全の童子と見做し難し依て養生法を辨へ貴重の運  
 動を營むと良薬と云ふべし  
 人の親たる者小兒の寵愛に溺れ易く爲め又育兒の方法を  
 誤ると少とせず何となれば寵愛過度に渡るときは或は小  
 兒をして薄弱に陥らしめ或は之れを隋弱に流れしむるに  
 至るなり假令は小兒の歩行を覺ゆるや偏に習慣に因て之  
 れを致すものにして其始て歩行を試むるの際誤て顛墮す  
 ると兩三回至れは小兒ながらも注意を喚起し后ち歩行

せんと欲するときには已に前に顛墮したるを思ひ出し如何せの今度は歩行し得へき乎を工夫するに至るべし如斯顛墮の回数益々加はるゝ從て工夫愈々委しく工夫愈々委ふして漸く歩行の自由を得るに至るへし然るに世間の父母たるもの之れを察せず常に小兒に附するゝ傳婢を以てし歩せんと欲せば則直に其手を牽き少しく動搖するを見れば則ち之れを抱かしむる等何事をなすも皆傳婢の手を假らしめ暫くも之れか手を離るゝとなからしむ實は育兒の法を誤るものと云ふべし若し右の如くするときの小兒ながらも情心を生し自から爲し得べきことをも之れをなさず

傳婢の脊負はんと欲するとき或は抱かれんと欲するときには必ず虚啼し傳婢に依頼するを知て自から振て事をなさんと欲するの元氣を萎靡せしむるに至るべし人の父母たる者小兒發育中在りては強ふるに行狀の端正を以てする勿れ又之れに責むるに動作の靜謐なるを以てする勿れ行狀の端正と動作の靜謐との年月の經過に伴ふ者なれば父母の之れを強ひ之れを責めざるも兒童の齡期漸く長するに従ひ兩者亦漸く之れを致すべし不注意活潑の天の小兒は許す所なり故に兒童のときは之れを檢束するに行儀作法等を以てす可からず唯其自然に放任し其

不注意活潑の天稟を逞ふせしめ而も歐洲諸國に於ても兒童の幼より餘り從順に行儀正しく且溫柔なる者の好まず何となれば古來幼より餘り行儀正しく且從順溫柔なる兒童にして他日天下の英傑となり名を末代に殘せしものを聞かざればなり

維新以來日本人身漸く文弱に流れ昔時の士氣風は全く地を拂ひ弓馬劍術の如き古來固有の体育は只管之れを野蠻の遺風と賤視し之を省みるものなきか如し是を以て身體は益虛弱に陥り毫も強壯に向ふの兆候を見ず從て出生の兒童も亦虛弱多病なるを免かれず實に痛歎の至りに堪へ

ざるなり之れに反して日本在昔の武士と稱したるものは之れを今日の日本人と比すれば力量なり強大なり遙に優者なるを知る是れ蓋し當時の教育は管に讀書に止まらず或は弓馬或は槍劍等の諸術を專にし体育的の戲嬉を十分勉めしに由るならん

衣服 衣服の氣候の寒暑童兒の強弱に依て自から厚薄あり恰好溫度を保ち寒からず暑からざるを要す四肢を裸出して寒風を忍ばすと勿れ又厚衣を重襲し常に温煖過度及びふときは皮膚弛緩して身體虛弱となり容易に寒胃を罹り易すければ四季の氣候に従て衣服の厚薄は適宜あるを

要す

衣類の用品に種々ありと雖ども最も輕軟なるハフランネル、リンネル、綿布を良とすフランネルハ平滑ならず少しく毛立ち皮膚を刺戟するものあれば其作用を變まし自然ニ強壯とあり寒胃に浸さるゝなし故に體質虛薄或ハ腸胃病を有する子供は常ニフランネルを以て襯衣となすべし我國風にして兒童は冬時に至れば凡四五枚の衣服を重襲し悉く之れを胸部に集め一枚毎ニ附紐を以て胸部の裸露せざるを旨とす斯く重襲せば身體の發育ニ害あり獨り手足の運動を妨ぐるニ止らず胸廓の活動を傷ふ實に意外に

出づるものなり尤も生來健強なる胸廓を有する小兒ハ別に害なきも我上等社會の小兒の如き體質胸廓共に薄弱にして概ね鳩胸となり兩乳房の下部は陥没して凹狀を顯し胸骨は突出して凸狀となる如此構造粗惡なる兒童ハ漸次成長するニ及て肺病に罹り斃るの恐あり何れも熟知せらるゝ如く衣服製造法は萬國其類を異にするも我邦國の如きの着脱ニ至て便なり然かり而して衛生上より論及するときは其裨益あると云ふにあらず故に大日本私立衛生會ニ於ても段々衣服改良に付數多の説明ありと雖ども未だ一定の良說なし空しく寸尺を費し冬時

に至れば復重の爲め胸廓四肢の運動を妨ぐると尠からず依て各自の便宜に依り可成的輕便に仕立假令の袖は小にして上前下前を胸部に合せ一枚毎に附紐を以て固結するとを略し唯だ西洋ボタンの如きを以て止め裾の身丈にして覆りも長からざるを要す如何となれば匍匐或は歩行の際下肢の運動自在ならざるなり一口に陳れば小兒の衣服は西洋形なるを良とす併し西洋の小兒生誕後より學齡時に至る其裁縫模様は各自の辨知する所ならず故に茲に簡便に説き養育者の参考と供す

生死の統計 今歐洲獨乙聯邦の都府中公生兒の一歳未滿

よして死亡する比例を目撃せば百分中十九、三乃至三十一、一分も過ぎず然れとも棄兒養育院の如きは間々百分中一兒だも其生命を完然し得ざるとあり故に其病根を穿鑿せば三種に區別し四十乃至七十% (プロツェント) の消化機病に十三、三乃至二十五、四% は呼吸器病に二十一、七% の神経病に罹り斃れし者なりと云へり就中夏季に至ては消化機病よ於て斃るゝもの多く冬季に至ては呼吸器病に罹り死亡するもの多し之れ全く飲食物氣候の然からしむるものなるべし此の痛歎すべき情態たるや今日本國に於ては斯く劇く其踪跡を見ること少し



許多の小兒の滋養の損害を生し爲めに羸瘦し死する者多しとす之れ全く不適當の食餌を攝取するに起因するものなり小兒母乳を哺啜する能はざるものは日本國に於ては甚だ稀あり彼の歐洲の如きは私生兒等の一の原因となり母乳を攝取する能はざるの難事あり爲めに母乳に代用すべき適宜の良品なきを以て夥多の死を來せり悲歎の至りならずや

歐米各國に於ては上等社會の兒童の死去に常は下等社會より少なく又下等社會の兒童の之れを上等社會に比較すれば孱弱多病なりとす然るに日本に於ては其關係全く反

對に出で上等社會の兒童の死數は常に下等社會に倍し又下等社會の兒童は上等社會より遙に強壯なるもの、如し抑も日本と歐米洲の間に斯く大なる差違の生する所以のものは獨り兒童生後の養育如何に係るのみならず妊娠時の状態に相異なるに原因するならんと信すればなり

## 小兒養育法

畢

明治廿六年四月廿四日印刷發行

定價金拾錢

發行 者 大橋新太郎

日本橋區本町三丁目八番地

印刷者 淺尾德太郎

日本橋區上橫町十六番地

印刷所 八重洲橋印刷會社

日本橋區上橫町十六番地

東京日本橋區本町三丁目

# 發兌書林 博文館



## 寸珍百種

每月編讀切新珍形美裝本  
二冊五錢  
三冊七錢  
四冊九錢  
五冊一圓  
六冊一圓二錢  
七冊一圓四錢  
八冊一圓六錢  
九冊一圓八錢  
十冊二圓

|      |          |    |         |
|------|----------|----|---------|
| 第一編  | 學問之方針    | 全  | 宮川鐵次郎君著 |
| 第二編  | 勿處名生之方針  | 全  | 中原尙德君著  |
| 第三編  | 錢一名俗貨幣大意 | 全  | 高槻純之助君著 |
| 第四編  | 事物原始一千題  | 全  | 岸上操君著   |
| 第五編  | 柳北遺稿     | 上卷 | 成島柳北君著  |
| 第六編  | 柳北遺稿     | 下卷 | 成島柳北君著  |
| 第七編  | 皇朝千家絕句   | 全  | 佐藤六石君著  |
| 第八編  | 萬國發明家列傳  | 全  | 澁江保君著   |
| 第九編  | 應用新論經濟地理 | 全  | 伊勢本一郎君著 |
| 第十編  | 通俗簡易治療法  | 全  | 松尾連君著   |
| 第十一編 | 明治英傑詩案   | 全  | 內山正如君著  |
| 第十二編 | 俳諧獨案     | 全  | 田中攢二郎君著 |
| 第十三編 | 實用英字書法   | 全  | 中原尙德君著  |
| 第十四編 | 支那漫遊實記   | 全  | 安東不二雄君著 |

(1)

(2)

第十五編 第十六編 第十七編 第十八編 第十九編 第二十編 第二十一編 第二十二編 第二十三編 第二十四編 第二十五編 第二十六編 第二十七編 第二十八編 第二十九編 第三十編

|    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |   |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|
| 岡本 | 附  | 譚  | 譚  | 譚  | 骨  | 水  | ウ  | 俳  | 俳  | 獨  | 通  | 附  | 小  | 支  | 支  | 歐  | 歐  | 必 |
| 祭星 | 祭星 | 海  | 海  | 海  | 談  | 稽  | 稽  | 史  | 史  | 傳  | 傳  | 傳  | 菓  | 那  | 那  | 那  | 歐  | 處 |
| 餘光 | 餘光 | 選  | 選  | 選  | 選  | 選  | 選  | 談  | 談  | 談  | 談  | 談  | 裁  | 漫  | 漫  | 漫  | 歐  | 處 |
| 翁雷 | 翁雷 | 選  | 選  | 選  | 選  | 選  | 選  | 談  | 談  | 談  | 談  | 談  | 培  | 學  | 學  | 學  | 歐  | 處 |
| 笑餘 | 笑餘 | 選  | 選  | 選  | 選  | 選  | 選  | 談  | 談  | 談  | 談  | 培  | 法  | 信  | 信  | 信  | 歐  | 處 |
| 聲  | 聲  | 選  | 選  | 選  | 選  | 選  | 選  | 談  | 談  | 談  | 談  | 培  | 法  | 信  | 信  | 信  | 歐  | 處 |
| 全  | 全  | 全  | 全  | 全  | 全  | 全  | 全  | 全  | 全  | 全  | 全  | 全  | 全  | 全  | 全  | 全  | 全  | 必 |
| …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | 必 |
| 横田 | 横田 | 依田 | 依田 | 依田 | 依田 | 依田 | 依田 | 依田 | 依田 | 依田 | 依田 | 依田 | 依田 | 依田 | 依田 | 依田 | 依田 | 必 |
| 香苗 | 香苗 | 百川 | 百川 | 百川 | 百川 | 百川 | 百川 | 百川 | 百川 | 百川 | 百川 | 百川 | 百川 | 百川 | 百川 | 百川 | 百川 | 必 |
| 君著 | 君著 | 君著 | 君著 | 君著 | 君著 | 君著 | 君著 | 君著 | 君著 | 君著 | 君著 | 君著 | 君著 | 君著 | 君著 | 君著 | 君著 | 必 |
| …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | 必 |
| …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | 必 |
| …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | 必 |
| …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | 必 |
| …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | 必 |
| …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | 必 |
| …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | 必 |
| …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | 必 |
| …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | 必 |
| …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | 必 |
| …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | 必 |
| …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | 必 |
| …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | …… | 必 |

以下ノ目次ハ追テ廣告スベシ

福地櫻痴先生新作 武内桂舟密書

東鏡拜賀卷

附春興鏡獅子

郵正密全  
稅價畫一  
金拾入冊  
四五洋大  
錢錢裝判

此作は櫻痴先生の健筆に成れる新著にして先生の傑作中の傑作なり頼家の修禪寺の浴室に弑し公曉を誘喚して實朝を弑せしめたる北條義時の好惡その事實を摘發して見るが如く寫したる先生の筆力、精神讀み來つて痛快極りな歌舞伎座を先生に乞ふて之を場に演せんとす以て其妙作たる菊五郎の諸名優を先生に乞ふて之を場に演せんとす以て其妙作たる

福地櫻痴 居士著作

關ヶ原譽凱歌

楠

女野次郎

郵正價二  
稅價四  
拾五錢

郵正價十  
稅價四  
錢

郵正價五  
稅價五  
錢

郵正價四  
稅價四  
錢

(3)

(4)

福地櫻痴居士題辭、大和田建樹君序文  
蜃氣樓主人選

上卷既成 ●下卷近刊

# 義太夫文粹

全二冊七百頁  
洋裝美本  
正價一冊廿錢  
郵稅各六錢

義太夫の文は獨り諷ふて聞くべきものに非ず又誦みて味ふべきものなり義太夫の長所は和語漢語雅言俗言に論なく、廣く内外諸典に取りて融和混同し煖炙溶化し流暢にして平板ならず富贍にして亂雜ならず奇峭幽怪天真爛漫の妙を極めん情中情を含み能く文章の能事を盡くして人をして感嘆措く能はさらしむるにあり此書は特にその精粹を抜きて詳に評釋を施したれば眞に國文の龜鑑となすに足れり、

## ●蜃氣樓 新選歌曲集

全二冊 正價四十錢  
郵稅五錢

## ●蜃氣樓 狂歌狂句集

全一冊 正價二十錢  
郵稅二錢五厘

農學士白杵永次郎先生著

(製本既成)

## 造 林 學

全一冊 洋裝大判美本  
正價拾五錢  
郵稅六錢

我國從來木材を使用すること多矣家屋器具より日用の薪炭に到る迄盡く木材に資らざるなし況や又電信柱鐵道枕木の如き築港架橋の如き其他百般の器具器械益々木材使用の量を増加し從て森林樹木の伐採愈甚し加之維新後奉還士族濫伐の弊を受け到る處禿山裸谷重疊連亘するを見る今に於て救濟の道を講せずんば木材供給の道絶えて國民經濟の恐慌を來たし水源涸枯土砂流出以て農業の大本を錯亂し氣候の調和を失して國民の健康を破るに至らん西班牙佛蘭西の鑒其れ遠からず近く我が本邦の國民を奈何せん然り而して森林學の著述寥々として救濟の道を講ずる難し我が館茲に感ずる所ありて白杵林學士の造林學を出版す此の書文簡にして意明なり以て造林の學理と實驗とを説く業を執るの森林家職を奉ずるの森林官森林を繁殖する政治經濟の諸君森林を談ずる際此書夫れ益あらん森林を救濟せんとする諸君希くは一讀あれ

(5)

(6)

福地櫻痴居士戯作

(武内桂舟密書)

### 櫻痴滑稽談

全一冊 雅裝美本  
正價 廿五錢  
郵稅 六錢

櫻痴先生は明治文壇の孫悟空なり。其縦横如意の健筆は。舒せば上三十三天の神機を啓き。縮むれば下十六地獄の隱微を穿ち。斯濁界幾千の魔頭をして潜むる其處あらざらしむ。此書は先生が得意の裡面的觀察を以て所謂紳士紳商社會の實相を喝破し去りたる者にして。花懺悔には當時流行の花がるたを弄して二三の出來星紳士が家屋を蕩盡するのは顛末を叙し。大和錦には板權者流が絹糸渡りの際どき生活の實況を寫眞して。ゼンマイ仕掛の細きからくりを覗かしむ。之を繙くもの一讀して人間生活の案外容易と滿悦し。再讀して案外六ヶ敷に喫驚し。三讀して初めて人間生活の眞理を悟り得可し。之を一部の小説として讀むも可なり。一種の處世的講義録として誦するも可なり。世の櫻痴先生を知る人乞ふ速に一本を求めて其愉絶快絶なるに三驚せよ。

松浦政泰君編

(製本既成)

### 應用文章學

全一冊 洋裝  
正價 拾二錢  
郵稅 四錢

本書は著者腹筒富瞻の文思により文章作法に關する方法を平民的美文趣味に面白く親切に説明したるものにして其例證する所日本古今の有名なる和歌、詩文等數百を網羅し其好む所を擇びしむ殊に著者が學生教授の經驗より得たる便宜なる新法に因て説明したるものなれば文章に志ある人は勿論學生諸君には温かなる同情を得べきなり

大和田建樹先生著

(製本既成)

### 應用和文學

全一冊 大判  
正價 百五十五錢  
郵稅 拾六錢

(7)

「こそ」けれ「なん」侍る「源氏文。美は美なりと雖も普通文は之にのみ偏すべけんや。夫れ此を以て「所以なり」の外史文。妙は妙なりと雖も普通文は之にのみ傾くべけんや。此一柔一剛の兩極文を折衷し。謂ゆる通俗文の標準を定めん事は。先生が年來熱心に研究せられし所なり。今應用和文學の出でたるは。蓋し此持論を研究の結果を世に公にせられしのみ。請ふ看よ先生が平易の文跡は其理想の在る處を明にせし者なる事を

閑院宮載仁親王殿下御題辭

御料局技師新宿植物御苑主任 福羽逸人先生著

(製本既成)

# 蔬菜栽培法

全一冊 五百廿頁  
正價金七十錢  
郵稅十錢

本園は園藝に有名なる福羽逸人君が多年の實地經驗と歐米に在て研究せられし實驗を一々學理に照し東京内藤新宿植物御苑に實施し且つ駒場なる農科大學々生に講述せられし本邦及び歐米蔬菜栽培法にして世上栽培書多しと雖も此書の如く和洋共に備り且つ實驗に適切なるものなし本館幸に全君に乞て之を刊行するを得たりし世の園藝及び農事に志す諸君は御一讀あらんとを望む

農學士 恩田鐵彌君著

(製本既成)

# 苹果栽培法

全一冊 洋裝美本  
正價 拾錢  
郵稅 四錢

暖國に於ける蜜柑の産額は非常に増加し來りたれども獨り寒地よ於いては之に適應したる果實を培養するを知らざるもの多し本書は著者が熱心に寒地に於ける苹果栽培の必要を論したる者にして我國小農組織の爲めに善美なる改良策といふべし産業に志ある人は勿論苟くも東北人種は一本を坐右に備ふべし

鴻齋 石川英先生纂修

(全部銅刻印刷鮮明)

# 龍頭 康熙字典

全部四拾卷合本六冊  
和裝絹表紙全二冊帙入美本  
製本体裁縱六寸三分橫四寸三分厚六寸五分上等日本紙

正價金六圓 特別賣價金四圓五拾錢 郵便稅五拾二錢

康熙年間、清廷始テ字典ヲ選ム、凡ソ玉篇、字彙、字鑑、正字通、廣韻篇海等ノ外、名山古廟ニ藏スル所、塞外邊地ニ用ル所、竹簡、漆書、鼎彝、墓碣ノ刻文マテ、盡ク網羅シ、大學士諸儒三十名ノ編輯ニ係ル、宇宙間字書ノ精密ナル、斯書ヲ以テ冠冕ト爲ス、後又屢改刻シテ、往々誤謬ヲ爲ス者アリ、本邦享和元文ノ際、始メテ此書ヲ傳フ、當時ノ書肆、翻刻スル者、誤以テ誤ヲ傳ヘ、終ニ訂正スル能ハズ是ニ於テ、後進ヲシテ誤マラシメン事ヲ恐レ、多年校讎ヲ經テ、盡ク之ヲ正シ、且ツ日本書記、萬葉集、古言梯、倭名鈔諸書、許多ノ國書ヲ參考シテ、音釋ヲ詳ラカニス、志學ノ諸君斯編ヲ坐傍ニ備ヘバ、天下讀ム可カラザルノ書無ク、識ル可カラザルノ字無カルベシ

石川鴻齋先生撰

# 新撰日本字典

全二冊銅刻印刷鮮明  
和裝絹表紙堅牢美本製  
本体裁厚サ一寸七分  
五寸四分横三寸八分

正價金壹圓

特別賣價金八拾錢

郵便稅拾錢

字典玉篇ノ行ハレシヨリ、世ノ字書ヲ刻スル者、枚舉スルニ違アラズ、然レモ或ハ繁ニ過キ、或ハ簡ニ過キ、或ハ邦訓ヲ詳カニセズ、字義反切等ヲ誤ル者少カラズ、斯編ハ數十種ノ字書ヨリ、世上必用ノ文字ノミヲ拔出シ、四聲反切ヲ詳カニシ多ク邦訓ヲ増加シ、熟語及ヒ其出處ヲ掲ケ、最モ詳密ヲ宗トス、且ツ古文ノ變体及ヒ字書ノ誤レル者ハ盡ク削除シ、無用ヲ捨テ、有用ヲ取り、紙數ヲ減シテ携提ノ便ヲ謀ル、凡ソ經書歴史及ビ兩漢以來、諸家ノ記錄スル所文字、多數ナリト雖モ斯編ニ熟セハ、盡ク通曉セサル無シ、冀クハ一部ヲ購求シテ、坐傍ニ備ヘタマハ、其益莫大ナラン

岡本黄石。小野湖山。巖谷一六。日下部鳴鶴  
丁野丹山。栗、匏庵。岡鹿門。長森 學稼 諸大先生校閱  
神波即山。矢土錦山。大槻如電。  
石川鴻齋先生纂修 (全部銅刻印刷鮮明)

## 篆文 日本大玉篇

全部拾二卷合本三冊  
和裝絹表紙映人美本  
縱六寸三分横四寸三分  
分厚三寸上等日本紙

正價金三圓

特別賣價金二圓五拾錢郵便稅二十四錢

### 本書編纂法

願氏玉篇ヲ撰ミシヨリ、本邦翻刻スル者、家々原文ヲ省略シテ、字義字音等、誤ル者少シトセス、斯編ハ願氏ノ舊本ヲ主トシテ字典、字彙、字貫、正字通等、凡ソ天下ノ字書ハ、盡ク網羅シ、且前清國ノ大使、黎庶昌ノ藏スル所明人手録ノ音義ヲ請求シテ、府下諸大儒ノ校讐ヲ經、四聲ヲ詳カニシ、邦訓ヲ明ラカニシ、務メテ先輩ノ誤謬ヲ訂正シ、上欄ニハ許氏ノ說文、及ヒ藝文備覽ヲ鈔録シテ篆字體ヲ掲ケ、凡ソ字書ノ完備スルヲ、此編ニ若クモノ無シ

本書ハ國ニ漢文學流 鳳文會玉篇ト題シ、編纂ニ多年ノ長日月ヲ重テ、刻費又數千金ノ巨額ヲ費シ、漸ク完成シタルモノナリ、然ルニ同籍不幸ニシテ廢業シ、僅ニ豫約ノ少部數ノ外廢刊シ、原版ハ某氏ノ收藏トナリ、久シク江湖志學者ノ需用ヲ欠キタリ、今ヤ漢文學復興ノ際ナルヲ以テ、本館之ヲ購ヒ尙又鴻齋先生ノ再訂ヲ經テ、日

本大玉篇ト改價格ヲ減少シ紙質印刷製本ニ精良堅牢ヲ極メ以テ文

セリ、志學ノ諸君、一部ヲ坐傍ニ備ヘタマハ、眞ニ宇宙間、無比ノ至寶ト云フベシ

中央衛生會會長與專齋君題辭 醫學博士樫村清德君校閱  
陸軍軍醫總監石黑忠惠君序文 正七位林代次郎遠山椿吉兩君纂譯

# 臨床療法大全

全一冊

總皮極上洋裝  
紙數九百頁  
袖珍輕便美本  
賣價金壹圓  
郵便稅六錢

本書第一版正價二圓ナリシテ第二版ハ一層美本トナシ非常ノ勉強ヲ以テ正價金壹圓ト改正ス

本書特有ノ長所ハ所載ノ該新治療法ヲ網羅シタルト通篇鮮  
博完全ニシテ廣ク天下ノナ用キタルヲ以テ製本小形麗潔ニシテ實地醫家ノ携帶至便ナルトニ在リ  
曩キニ第一版ヲ公ニシ全國醫伯諸君ノ大賞賛大喝采ヲ博シタルヲハ既ニ  
世ノ知ル所復々贅スルノ要ナシ今般學館ニ於テ第二版ヲ起スニ際シ更ニ増補スルニ  
ニ花ヲ添ヘタル者ニシテ明治ノ杏林治療書ニ乏シカラスト雖正實地醫家  
ノ掌璧ト稱スベキ者本書ノ右ニ出ヅル者ナシ今日苟クモ名ヲ醫籍ニ掲ク  
ル諸君ニノ縱橫其技倆ヲ逞フセント欲セハ冀クハ一本ヲ得テ本書ノ眞價  
値ヲ知ラレノイナ

松尾 連君編纂

# 改正日本藥局方

全一冊紙數四百頁  
洋裝美本  
正價金二拾五錢  
郵便稅三錢

醫學の進歩ハ今や昌々乎として其止まる處を知らず隨て之に伴ふ所の醫  
藥も亦皆其精を加ふ故に前年劇毒と認めし者も今日ハ己に普通藥となり  
從來代用を許せし藥品も今日ハ其猛劇に過くるの劑質たり是れ我政府が  
去明治十九年内務省令を以て本法を發布せられたる所以なり然りと雖も  
現今の藥劑や日に月に新なるを以て我政府は復た其欠を補はんか爲め去  
廿四年五月改正日本藥局方を編制して公布せられたり依て本館に於てハ  
婦女子にたも了讀の便を興へんか爲め特に傍訓を附し卷尾にハ藥劑師及  
醫家に須要なる法律並に省令を附録とし全卷ハ通じて龍頭を設け化學  
的符號及び必須なる藥品性質の一斑を掲録し苟も藥劑を處置する者及び  
醫師にハ實に日用必須の書なり請ふ江湖幾多の國手藥劑師諸君試みに一  
本を購へ

# 初等小生理書

松尾 連君編

全一冊 正價拾二錢  
洋裝美本 郵便稅四錢



前文部大臣 森 有禮公序文 海軍軍醫總監戸塚文海公序文  
陸軍軍醫總監松本 順公題辭 堀 誠太郎君譯述

# 婦女性理一代鑑

一 婦 女 一  
一 衛 生 一  
名 獨 案 內 一  
全一冊洋裝 六百人十頁  
賣價三拾錢  
郵便稅拾錢

嚴正確實なる醫學の説を以て婦女子性理上の一大義務を知らしめ英國に  
行われカナダに飛び日耳曼語に譯せられ其發賣高數十萬部に及へる日本  
書醫學博士ナフエース君の著なり曩きに堀君米國に遊び後譯して日本の  
婦人又紹介せしが江湖の需用夥しく直ちに賣切となり久しく江湖の需用  
を缺たりしが今回。本館に於て再び出版をなしたり妻母たるもの、師傳  
たるもの、凡そ自己と他人とに關して充分に盡すべき條件に於て婦人を  
助成し得る所のもの詳細に之れを論述せり、實に本書の眞實、高調、  
勇壯の体裁にして盡く婦人女子の繁榮と幸福とに缺くべからざる教諭な  
り、

夜雪庵金羅宗匠撰

四 明治  
版 新撰

## 俳諧壹萬集

全一冊洋裝美本  
紙數三百頁  
正價二拾三錢  
郵便稅三錢

俳諧の道は三百年前に起り今日に至る其盛を極む僅々十七字を以て其幻妙を究極するときは常に  
天地を動かし鬼神を泣かしむべし本書は曾て屢々廣告を以て全日本に募りて數萬の首を集めたる中  
より佳なるものを選抜し且三種十哲は他古今諸名家の發句、聯句、俳文等の尤も看るべく喜ぶべ  
きものを蒐集したるものなれば常に諸學に有益なるのみならず古今未嘗有の一大完全なる俳書と  
いふも敢て誣言に非ざるべし大方の請彦必ず一部を座右に備へざるべからざる良書なり

田中 續次郎 君 著

### 再 版 俳 諧 獨 案 內

全一冊洋裝  
正價金拾錢  
郵便稅四錢

人々十七文字の俳諧なるを無りて其語の十七文字に限らざるを知らず此書は俳諧といふことの起  
源沿革より大意、百韻、歌仙、四十四法、七十二候、首尾、等の語法より四季の題、作例、其他  
俳諧に關する諸事は網羅して殘す所なし眞に獨案内の名に負かず何人とも雖ども之を繕きて玩味す  
るときは紹巴、宗祇、芭蕉たるに於て何かあらんや

竹冷角田眞平君序文 文科大學生山崎庚午太郎君著

# 俳諧史談

全一冊  
正價百三洋  
郵便税金四十錢

**目次** 俳諧の字義 俳諧の源流 俳諧の體裁 俳諧の歴史 俳諧の分類 俳諧の作法 俳諧の批評 俳諧の地位 俳諧の未來

歌の源流 俳諧の源流 俳諧の體裁 俳諧の歴史 俳諧の分類 俳諧の作法 俳諧の批評 俳諧の地位 俳諧の未來

歌の源流 俳諧の源流 俳諧の體裁 俳諧の歴史 俳諧の分類 俳諧の作法 俳諧の批評 俳諧の地位 俳諧の未來

歌の源流 俳諧の源流 俳諧の體裁 俳諧の歴史 俳諧の分類 俳諧の作法 俳諧の批評 俳諧の地位 俳諧の未來

從二位子爵品川彌二郎公題歌 撫松庵松永厚君著

# 俳諧麓廼菜

全一冊雅裝  
正價二拾五錢  
郵便稅六錢

此書は首に俳諧の總論を掲げ句法連音品詞分類より接続法起續法錯語辨新定十体に至るまで凡そ俳諧に要する科目は悉くとして洩すことなく問々作例を引證して親切簡明に數示し拾遺金玉を附す俳諧に志ある人この麓の乘を辿らば網頂を究むることを難きにあらざるなり

水哉坪谷善四郎君著 (松本楓湖、小林永湖、尾形月耕密書入)

閨秀 錦囊

# 日本女禮式

一婦一人 全一冊六百頁  
重寶鑑 和裝帙入美本  
正價金五拾錢  
郵便稅拾二錢

**總論** 人間に禮式の婚姻 ●日本の婚姻禮式 ●西洋の婚姻禮式 ●支那の婚姻の禮式 ●出產 ●妊娠 ●産後の教育 ●奉仕 ●夫に事

●得附妊娠中の養成法 ●出產の心得 ●産後の心得 ●子を育つる心得 ●附兒守りへの申渡 ●家族に對 ●交際 ●起居動作の心得 ●給仕の心得 ●日本料理響應

●する心得 ●和歌の心得 ●茶道の嗜み ●插花の心得 ●香道の嗜み ●衣服裁縫洗濯染め様の心得 ●衣服洗濯の心得 ●飲食料理献立の心得 ●住居の心得 ●奉公人を使ふ心得 ●病人あつかひの心得 ●金錢

●貯蓄の心得 ●鼈頭 ●女今川 ●女子訓 ●女小學 ●德大學 ●愚蒙いさめ ●草 ●婦人六徳和解 ●女五常訓 ●米婦人心得草 ●や

## 次目書本

まと言語心得草 ●女孝經 ●介婦の戒め

從三位勳二等安場保和君題辭 江島茂逸大熊淺次郎兩君編

商人 龜鑑 博多三傑傳

全一冊洋裝 大判密書入 正價拾五錢 郵稅四錢

封建割據の蝸牛天地にありて萬里の波濤を凌ぎ朝鮮支那呂宋暹羅等の諸港に通商買めを試み豪膽不羈一世を高睨し牙籌を握るの一商賈を以て交りを諸侯伯に訂し當時關白秀吉の囑命を受けて朝鮮八道の地理を實驗し放言高論詭辨縱橫言を商機に寓して獲而耶か遠征策を冷刺熱罵するが如き其祖先が憂國濟民の情熱に難く妻子を棄てて遠く明國に航し練磨修養我國金銀關治の術を創開せしが如き或は殘廢の凄狀を悲むて博多町再興を企て或は名士の清談を喜んで時に茶器骨董の美術品を擁護するが如き外は我國人の心膽を示し内は我邦家の公益を廣むるもの實に本書の三傑人鳥井宗室神屋宗湛大名宗伯の紹志勳業なりとす本書は博多人士の氣焔を吐くのみならず又大に我商業界の爲に最大恩惠者を紹介したるもの也江湖の君子本書を繕きて其壯圖雄謀を知り併せて隱微埋伏の真相を觀破せよ

樞密顧問官正三位伯爵寺島宗則公題辭

中原尙德君著

東京商業會議所會頭澁澤榮一君序文

●世界第一金傑 ロスチヤイルド一家詳傳

全一冊大判 洋裝有像入

正價十二錢 郵稅二錢

日本商業雜誌主筆坪谷善四郎君著

内外豪商列傳

全一冊洋裝 三百五十二頁 正價拾二錢 郵稅二錢

壯快の筆を以て壯快の傳を叙し讀者をして頌天も厭ふも厭ふも志を立てしむ是れ本書の目的なり方今世上治平無事亦兵馬革命の變に乗じて身を立て名を成すこと能はざるも幸に商業市場の治勢を利用し波瀾高低の危険を履まば空拳徒手より起りて碧瓦白壁内に住するること難しとせば有爲の材を抱くのが身立つるの道は一に此に在り而して其商業場裡に馳騁し危機活勢の間に縱横するには如何せば可なるか是れ本書の明かに指示せる所なり

原抱一庵主人著 藤島華僊密書

大石良雄

全一冊和裝 正價拾二錢 郵稅四錢

正體澄目滿を引て容易に發たさるの忍耐力、是を稱して蓄積力といふ、英雄巨人の大事業大偉功皆蓄積力の原動力、大石良雄亦此學線を彈撥したるの士なり、主人が玲瓏の意匠、透徹の彩筆、能く此好漢を畫き來る、小奇徹激の主君の生命を死より救ひたる一少年池田休馬が、秋水一閃元祿の變となり、社稷亡び倭祿を奪る、や、端しなく彼の胸中に醜醜せし蓄積力の變動を呼び起し、風雲雷電、龍驤虎變、忠義心義勇の士、大石良雄の名、永く千載に炳耀するに至るの狀、手に從て縦横發揮す、描寫精妙夢靈炯射、人生の粹美を扶す、少年諸君一度之を讀まば、大石良雄と其交を通し其事業終りたる原動力を感得するや必せり矣。

# 日本博士全傳

樞密院議長大木伯題辭 花房吉太郎山本源太兩君編纂  
全一冊大判美裝本  
紙數三百七十頁  
正價金三十五錢  
郵稅金拾錢

明治昭代の文學隆を延喜天曆に比し美を實政享和に較するも寧ろ遙かに優るあり而して此の病々たる多士中に卓立し學東西を籠罩し識古今を涉獵し文實兼備へて之を言論著作に發し之を發明經驗に徴し功績を萬世の後に垂れて名譽を洋の東西に輝かし遂に博士の學位を授かりたる法文理工の各科に於ける碩學大 一百二十一人 を出せり其人皆筆墨雪案の下苦學萬人に卓絶家今日に至るまで總へて せざる無し今本書一々詳かに其の傳記を輯録し現に其の人に接するの感あらしむ後進立志の獎勵必ず大に裨益あらん

## 大日本農功傳

農務局纂訂 全一冊 正價二拾錢 郵稅六錢

## 商人博多三傑傳

江島茂逸君編 全一冊 正價拾五錢 郵稅四錢

## 內外豪商列傳

坪谷善四郎君著 全一冊 正價拾二錢 郵稅二錢

## 拿破崙

原抱一庵主人纂 全一冊 正價拾五錢 郵稅四錢

## ロスチャイルド一家詳傳

中原尙德君著 全一冊 正價拾二錢 郵稅二錢

岡本黃石翁題詩 朝鮮名家朴泳孝氏題詩

# 和漢名家詩集

松井廣吉君撰  
全一冊洋裝美本  
正價金二拾錢  
郵便稅三錢

傑士の高義、美人の熱淚、直ちに發泄して詩歌を爲る詩歌は文學上最も趣味あるもの也就中字句の雄麗なる思想の宏大なる、音調の勇壯なるものに至ては實に漢詩を推さざるを得ず此書は和漢歷代の詩集を涉獵して萃を抜き英を撰び部門を分ちて之を編次せるものにして本朝古今の名詩は固より、唐詩の雄美、宋詩の清逸、元詩の宕元、明詩の巧麗、清詩の婉緻、其醇の醇なるものは皆一編の中に燦爛たり月下之を誦せば志士は奮ひ美人は泣かん劍書琴酒、坐右此の一本あらば又紛々たる幾多の詩集を要せじ

北村三郎。松井廣吉兩君編

# 和漢名家文粹

全二冊洋裝美本  
正價金四拾錢  
郵便稅五錢

支那の文章は歐洲諸國が猶ほ犇奔競逐に埋没せるときより已に燦然たる光輝を煥發し漢以前及唐宋、明清、時代の間特に萬丈の光芒を揚ぐ故に文章の如きも今日の西洋文章に比すれば寧ろ數等の上にあるも其の下に在るとなし即ち簡古、勁拔、豪宕、清逸、雄渾の態は實に世界に獨歩せり此書は漢文學に深き紫山氏の撰にして周代より清朝に至るまで上下三千年間の精を萃め華を拾へるもの以て支那文章の眞髓を味ふべし

巖谷一六先生題辭 矢土勝之先生序文

佐藤六石先生編

# 皇朝千家絕句

全一冊洋裝美本  
正價金拾錢  
郵便稅四錢

本朝絶句ノ粹ニ上ルモノ、汗牛充棟モ當ナラズ、而モ多クハ家數ト時代トテ限ル、此編ハ則チ然ラス、遠ク天智帝ノ朝ヨリ、近ク徳川時代ニ至ルマデノ作者、凡一千人、畧ホ其ノ時代ニヨリテ列次シ、讀者チシテ當時文化ノ迹チ、一目瞭然タラシメントス、而シテ此編ハ先ツ其ノ端ヲ發セシモノ、之ヲ本朝詩學小史ト謂フモ決シテ誣言ニアラザルナリ

巖谷一六先生題辭 矢土勝之先生序文 佐藤六石先生撰

# 日本名家詩選

全一冊洋裝美本  
正價金二拾錢  
郵便稅二錢五厘

凡ツ詩集ノ世ニ上ル者、汗牛モ當ナラズ、然レトモ、多クハ皆玉石混淆ノ觀ナキ能ハズ、蓋シ撰者既ニ詩ニ精シカラズ、且ツソノ好ム所ニ備スルニ由ル、六石佐藤先生茲ニ感アリ、元和ヨリ明治ニ至ルマデノ名家チ網羅シ、詩體チ分チテ七卷ト爲シ、五古七古ヨリ、以テ五絶七絶ニ至ル蓋シ明治ノ李攀龍ノ唐詩選ニ擬セラレタルモノニテ、公平ノ眼ヲ以テ、正大ノ選ヲセラレ、遠キハ江北海ノ日本詩選チ壓倒シ、近キハ愈蘭園ノ東瀛選チ凌駕スルニ足ラン、實ニ詩海ノ羅針盤ニシテ吟壇ノ燈明臺ナリ、請フ一本ヲ求メテ、此言ノ誣ナラザルチ知り玉ヘ、

末廣鐵腸君序文 三木貞一君編

# 古今狂詩大全

全一冊洋裝  
正價二拾錢  
郵便稅三錢

詩の狂詩ある、猶文の戯文あり、歌の狂歌あり、俳句の柳風あるが如し、亦文壇歛くべからざるの具たり、此書は一休和尚以來今日に到るまでの諸名家の什數千首を集む光彩燦爛百花の苑に遊ぶか如く興趣横生奇態百出―讀人をして噴飯せしむ而して細に味ふる時は刺規諷諭隱然として備はり時情風俗宛然として見はる是れ即ち狂詩の實用なり

織田純一郎君序文 三木貞一岸上操兩君編

# 古今名家戲文集

全二冊洋裝  
正價一冊廿錢  
郵便稅一冊二錢

文は實用を貴ぶ、然れども乾燥無味の文は人これを誦するを厭ふ、人これを誦するを好まざるこそきは流傳必ず廣からず、流傳廣からざるこそきは即ち辭達意達の本旨に負きて而して實用の實遂に擧がらず、乾燥無味の弊を救ふは戯文にあり文の以て消閑の具に供すべきも亦戯文にあり而して此集を讀まざるものは以てこの眞訣を語るに足らず

江藤新平先生著 男江藤新作君編

# 南白遺稿

全一冊大判洋裝美本  
石版肖像眞蹟挿入  
正價金廿錢郵稅四錢

嗚呼是れ維新の元勳明治の南白先生江藤新平君の稿なり其詩文雄渾雄健快刀亂麻を破り天馬空に翔るが如し世の徒々學士文人を以て自ら居る者の如きは之に對して將に噫然瞻破れんとす特に時勢を論陳せる諸篇に至ては其經綸の大才躍然として紙上に跳るを見る嗚呼學識深遠先生の如く才藻富瞻先生の如く而して空しく志を齎し冤を呑んで佐賀城頭一片の霧と消えしめたる者果して誰の咎ぞや此書は一部先生の外傳として見るべし

成島柳北先生著 男成島復三郎君編

# 柳北遺稿

全二冊洋裝柳北先生  
石版密刻肖像碑文入  
正價一冊拾錢郵稅各四錢

柳北先生は明治の一大文豪なり三代學士の家より生れて祖業を繼承し變故に遭遇して問關氣寢寧日なきも曾て其卓犖の氣を失はず王室中興して詳賢彙進するも獨り退ひて野に耕し富貴を求めず權門に媚ひず濼上に隠れて伍を俗輩と共にするを避く然れども其豪宕の氣遂に冢中の者たる能はず進發して花月新誌の詩文となり朝野新聞の雜録となり輕快飄逸縱橫罵倒して遺す所なし宜哉其逝後九年の今日詩を讀み文を誦するも猶ほ面り之に接するの懐ひあるや茲は先生の遺族門弟子等先生の詩文の永く世に傳はらざらんを恐れ本館に囑して其遺稿を刊行せしむ苟も柳北先生の名を知る人乞ふ一本を購ふて燈下に先生と對話せよ

樞密顧問官伯魯勝安芳公。向山黃村先生題辭  
清國欽差大臣黎庶昌氏序文 井上陳政君編

# 曲園自述詩

全一冊大判和裝  
正價金二拾五錢  
郵便稅一錢

支那十八省中第一等の碩學老儒と聞えたる曲園先生前樞氏が自家の情況を述べられたる詩なり蒼老簡古、雄渾雅健、以て當代無双の文雄が襟懷を看るべく、溫籍着實、以てその人の境遇を看るべきのみにあらず、併せて清國の國風を觀るべく亦以て清國の風調を察するに足るべきもの此書を措て他に求むべからざるなり

鷹洲織田完之先生著 諸大家批評

# 厚生利用集

全一冊和裝  
正價二拾錢  
郵便稅四錢

鷹洲織田完之先生の詩集なり、詩集題して厚生利用といふ以て、尋常畏花捉月紫評紅の吟にあらざることを知るべし、先生耕藝に明にして文學に精しき已に世人の知る所なり、然れども此書これを證するの的確明白なるに如くべからず、且以て眞詩を學ぶの規範に供すべし

# 少年文學

全五十冊  
每月一回  
發兌和裝  
美木仕立  
正價一冊  
十二錢〇  
六冊前金  
六十七錢  
〇十二冊  
前金一圓  
廿五錢〇  
全五十冊  
前金五圓  
郵稅一冊  
四錢〇

- 第一編 二がね 丸漣 山人著 桂舟畫
- 第二編 今人むく 助紅葉山人著 桂舟畫
- 第三編 維新辨三 慶江見水蔭著 桂舟畫
- 第四編 雨の日ぐら 傑北村紫山著 石版畫
- 第五編 寶の宮尊徳 山川上眉山著 桂舟畫
- 第六編 二宮尊徳 翁幸田露伴著 永興畫
- 第七編 姉と少年氣 弟：嗟峨のや著 永洗畫
- 第八編 當世少年氣 質：漣山人著 桂舟畫
- 第九編 親の少年氣 恩：宮崎三昧著 永興畫
- 第十編 紀大石 盡：村井弦齋著 年方畫
- 第十一編 大暑 雄：原抱一庵著 華僑畫
- 第十二編 近江 暇：漣山人著 桂舟畫
- 第十三編 甲子 人：村井弦齋著 桂舟畫
- 第十四編 河村瑞 賢：太華山人著 永洗畫
- 第十五編 太閤子 待：南新二著 永洗畫
- 第十六編 俠黒秀 吉：太華山人著 永洗畫
- 第十七編 陸奥の黒長 兒：尾崎紅葉著 桂舟畫
- 第十八編 伏魔將 者：幸堂得知著 米僊畫
- 第十九編 軍：石橋忍月著 永洗畫
- 第二十編

# 本 書 總 目

- 第一編 千代田歌集 一編 佐々木弘綱撰 第十三編 新撰俳諧一萬集 一編 夜雪庵金羅撰
- 第二編 和漢名家詩集全：松井 廣吉編 第十四編 日本名家詩選全：佐藤 六石編
- 第三編 日本文範 上卷 佐々木信綱撰 第十五編 古今狂歌狂句集全：岸上 操編
- 第四編 日本文範 下卷 全 撰 第十六編 都々逸獨稽古全：鶯亭 金升著
- 第五編 和漢名家文粹 上卷 北村 三郎編 第十七編 古今川柳一萬集全：骨皮 道人編
- 第六編 和漢名家文粹 下卷 松井 廣吉編 第十八編 名家尺牘文集全：岸上 操編
- 第七編 古今名家戲文集 上卷 三木 貞一編 第十九編 日本雅曲集全：大宮 宗司編
- 第八編 古今狂詩大全 全 編 第二十編 義太夫拾粹 上卷 岸上 操編
- 第九編 新選歌曲集 一編 岸上 操編 第二十一編 義太夫拾粹 下卷 全 編
- 第十編 千代田歌集 二編 佐々木弘綱撰 第二十二編 新撰俳諧一萬集 二編 阿心庵永機撰
- 第十一編 新選歌曲集 二編 岸上 操編 第二十三編 千代田歌集 三編 佐々木信綱撰
- 第十二編 古今名家戲文集 下卷 全 編 第二十四編 俳諧文集全：大宮 宗司編

東洋文藝全書 全部廿四卷紙數八千 頁以上一冊三百頁以 上每編讀切洋裝美本

正價一冊廿錢十二錢二圓全廿四冊三圓五拾錢郵稅一冊二錢五厘 第十七編 郵稅一冊六錢

松井廣吉君著

# 日本百傑傳

每卷讀切洋裝美本 紙數一冊大判百廿頁  
正價一冊拾二錢六冊六拾七錢郵稅一冊四錢

第一編目次 ●武内宿禰 ●中臣鎌足 ●柿本人丸 ●山部赤人 ●行基 ●和氣清廣 ●坂上田村麿 ●僧空海 ●紀夏井 ●菅原道真 ●三善清行

第二編目次 ●紀貫之 ●大江匡房 ●平將門 ●源賴朝 ●大江廣元 ●源義經 ●源為朝 ●平重盛 ●源賴朝 ●源義家 ●源義經 ●源為朝 ●平重盛

第三編目次 ●武藏坊辨慶 ●西行 ●北條泰時 ●僧親 ●僧日蓮 ●北條時宗 ●岡崎正宗 ●楠正成 ●楠正行 ●北畠親房 ●足利尊氏

第四編目次 ●細川頼之 ●太田道灌 ●北條早雲 ●僧一休 ●兆殿司 ●土佐光信 ●狩野元信 ●雪舟 ●後藤祐乘 ●毛利元就

第五編目次 ●武田信玄 ●上杉謙信 ●織田信長

三遊亭圓朝口演 水野年方密畫

# 八景隅田川

全一冊大判 洋裝美本 正價拾六錢 郵稅六錢  
茲にさる物持に何某さいふ人あり真崎の邊にいと風流なる隠宅を構へて住みたるが一人の娘なるとり此家に希代の強賊の入りけるがいかになる宿世や有けむ此賊に懸想しけるより萬變千化の奇談を生したる顛末を彼の有名なる三遊亭圓朝の例の得意の辯舌を揮ひて述べられしもの即この八景隅田川なり 丈の辯舌意匠の巧は知る人ぞ知る、世に面白きさいふこそを嫌ひたまはぬ方々は早く一本を求めて讀たまへかし

三遊亭圓朝講演 水野年方密畫(三版)

# 政談月の鏡

全一冊大判 洋裝美本 正價拾五錢 郵稅四錢  
三遊亭圓朝丈一本の扇子を握りて巧に人情の眞を寫し人をして喜笑怒罵禁ぜざらしむる元より尋常小説家の筆強の述作の比にあらす本齋は寶曆中依田豊前守曲淵甲斐守の二明奉行の江戸に起りたる毒殺事件の裁判にして圓朝丈の口演を一言一句も改めず速記して美麗なる讀本に仕立てたるものなり

英國大博士スマイルス氏原著  
日本文學士依原朝之介君譯述

# 俊傑少年

全一冊洋裝大判 正價金拾二錢郵稅四錢

目次 ●總論 ●世界大衆の少年なる事實 ●教育の必要 ●早成の大器 ●文學者 ●理學 ●政治家 ●軍人 ●古代の豪傑 ●近世の名將 ●結論 ●少年の特性

英國大博士スマイルス氏原著  
日本文學士依原朝之介君譯述

# 俊傑老年

全一冊洋裝大判 正價金拾二錢郵稅四錢

目次 ●總論 ●大器晚成 ●俊兒と愚童 ●遊戯と勉強 ●強 ●鈍 ●少年の將來 ●元氣及想像力の發作 ●戀愛と兵役 ●早熟と老成 ●美術家 ●詩人 ●能力の增長 ●政治家 ●法學家 ●理學家 ●軍人 ●著述家 ●理學者 ●政治家 ●法學家 ●結論

澁江保君著

# 西洋妖怪奇談

全一冊洋裝 木版密畫入 正價十二錢 郵稅四錢  
本書は小學生徒が修身講話の材料として泰西の原書有名なるグリム其他種々の原書により面白き奇々怪々の昔物語を集め勸善懲惡の道を説きたる好書なり

佛國學士會院長シユマ氏原著  
日本文學士小川忠武君譯述

# 佛蘭西二人皇后

全二冊大判 洋裝美本 正價廿四錢 郵稅八錢  
文章脚色の巧妙なる多々の記者を僥倖として風名に博せるは佛國有名なる學士會員兼小説家アレキサンデル・シユマ君にして紅家の俠勇及び革命の慘劇を並べ稱せられたるは佛國の好讀者を感泣感動せしめたるは本書佛蘭西二人皇后なり筆は前紅裁彩の意は風霜雷達寒大花影に吼ひ皇后若苦を踐むの情事、好伎の美人、放逸の僧正、有無變幻出沒自在、讀者をして茫然然然然として遂に本書を讀終りし其妙味を忘るゝ能はざらしむ



福地櫻痴先生新作 富岡永洗畫 (再版)

### 關原譽凱歌

此編は先生が歴史に據て著作せられたる新案にて趣向神逸文章絶妙實に今代近松我國の沙翁に度歌舞伎座に於て團十郎菊五郎の諸名優これに演するに付き即ち之を刊行す一讀三嘆の名著近來の奇書なり

全一冊大判 洋裝密畫入 正價二拾錢 郵税四錢

福地櫻痴先生新作 桂舟永洗二氏畫 (四版)

### 尊王 平野次郎

贈正四位平野次郎國臣が安政の初より成らして東西を奔走し文久三年生野は世の知る幕府の爲めに没されたる忠烈の事蹟を演劇本に著述し今度先生が江戸にて志を合せて下り西郷の溺死を援け華丸の船中にて助て薩摩に下り西郷の溺死を援け華丸の船中にて黒田突に闘して尊攘の事を論じて日華戦り澤主水にて捕はれ福岡獄内の苦を許されて戦敗て兵に當るを戴きて但馬の生野に義兵を擧げて戦敗て兵に當るを捕縛せらる迄を七幕につづめ實に慷慨激昂の情を演ぜり一讀して神泣き鬼哭するの趣ありて絶妙の愉快の文字なり

全一冊大判 洋裝密畫入 正價二拾錢 郵税四錢

福地櫻痴先生作 富岡永洗畫 (再版)

### 求女塚身替新田 女楠賢母教訓

此書はさきに歌舞伎座に於て興行し大喝采を得たる演劇の脚本なり身替新田は櫻痴居士が近松の原作を改良したる妙案、女楠は櫻痴居士が近松傑作新田楠兩將の忠烈慷慨、瀧精神紙上に溢れて鬼泣き神哭す實に歴史劇の上乗なり購讀あつて其然るを知り玉ふべし

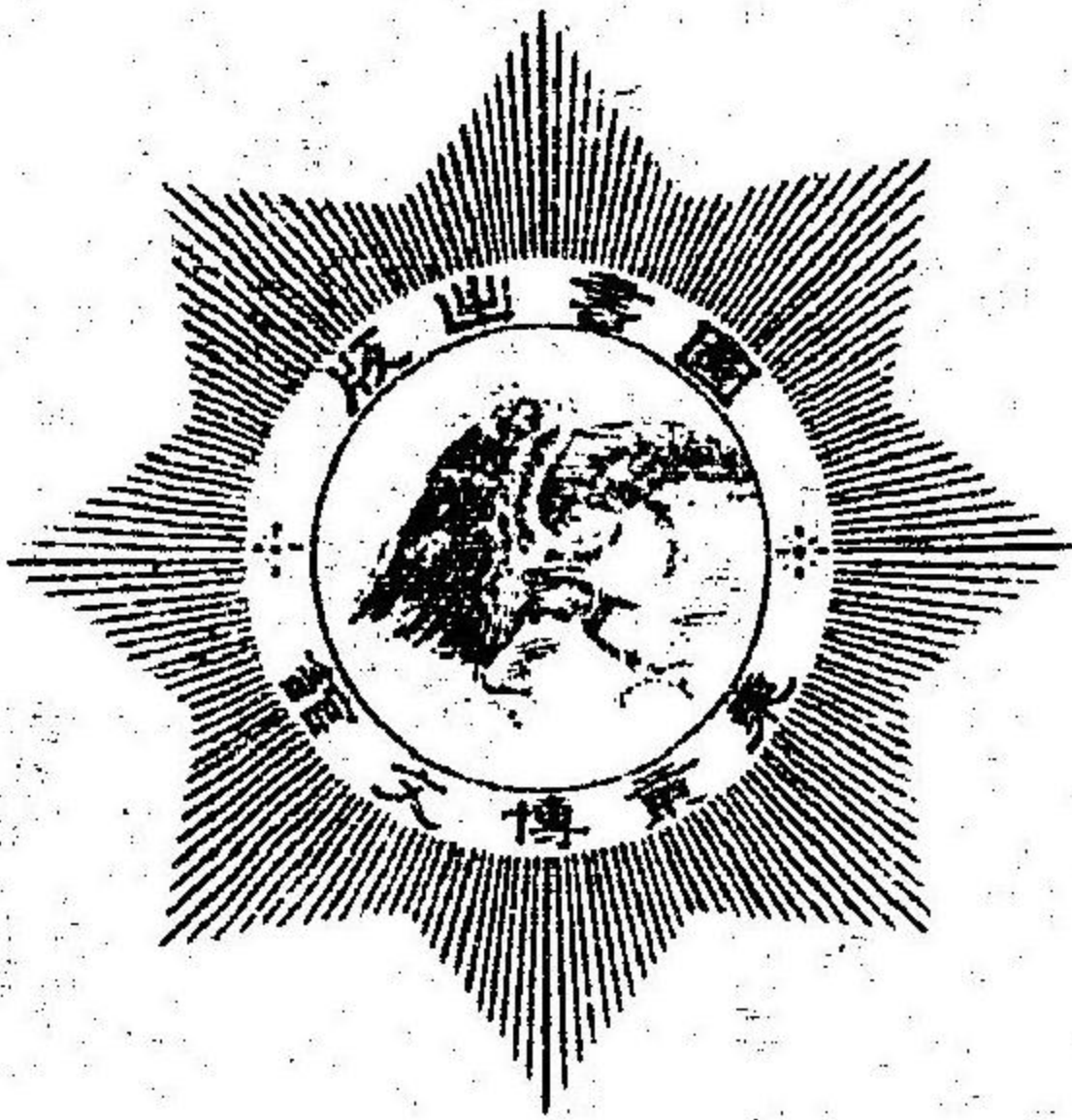
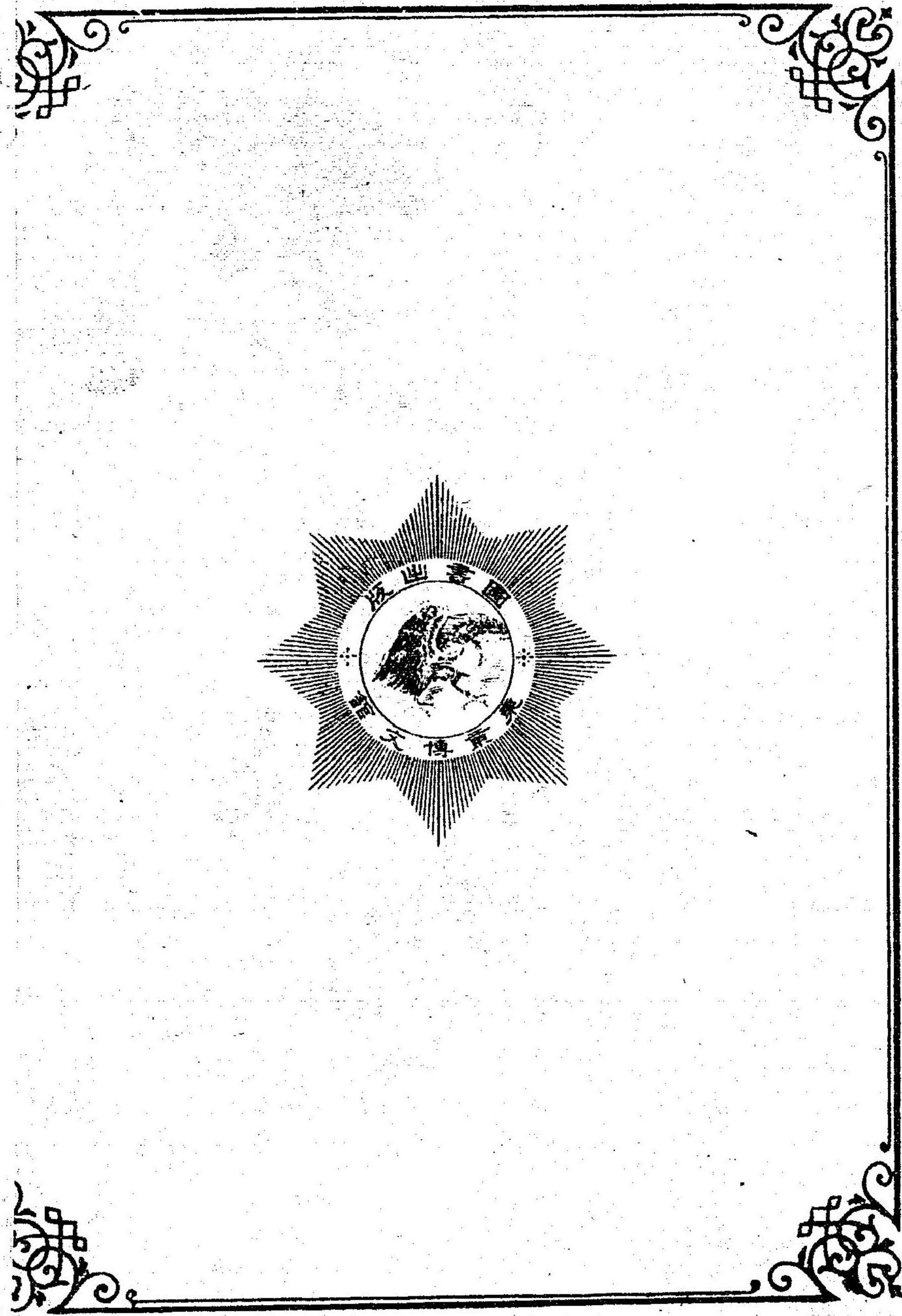
全一冊大判 彩色密畫入 洋裝頗美畫入 正價二拾錢 郵税四錢

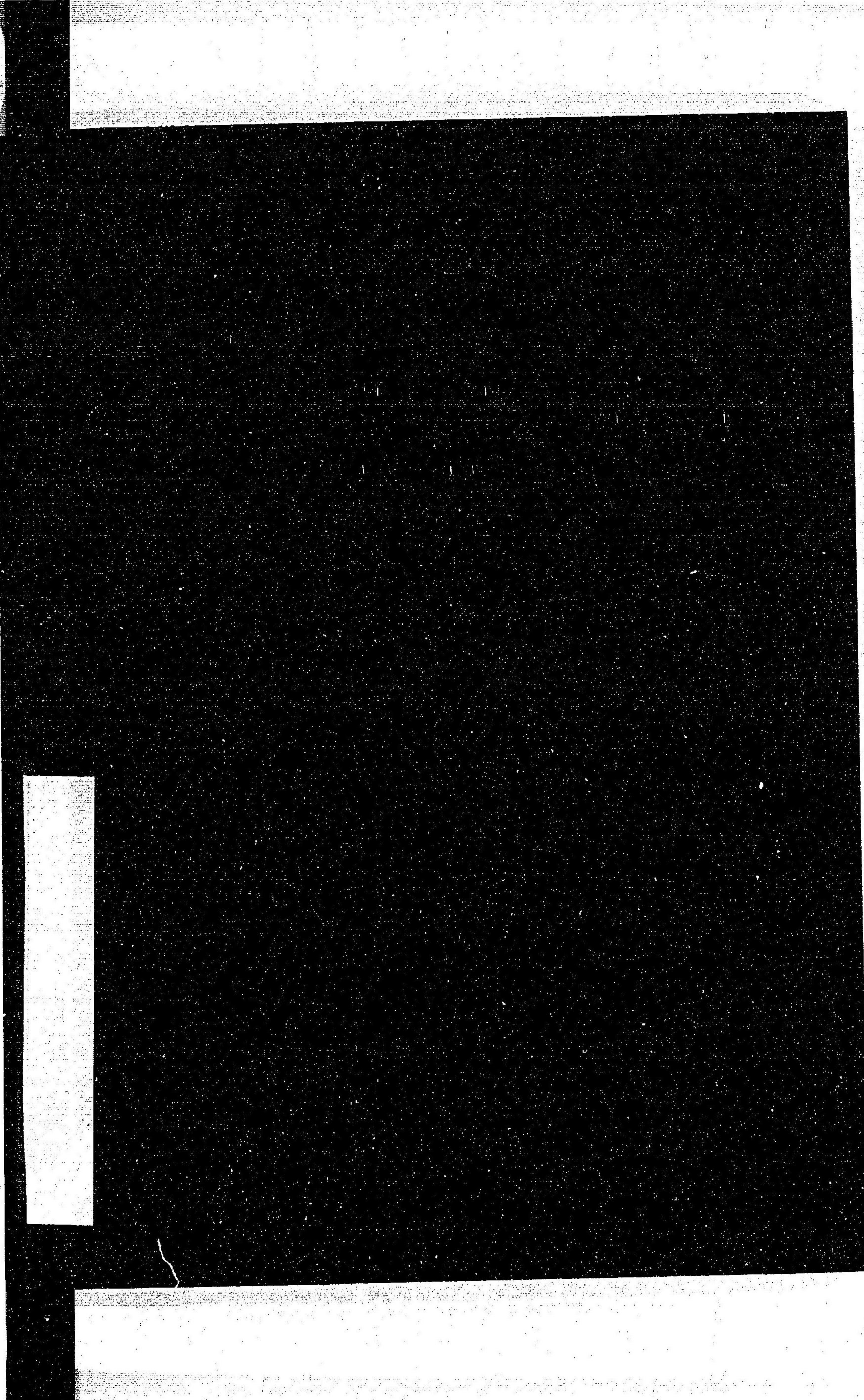
巖谷漣山人著 藤島華徑密畫

### 新御伽草子

可愛らしき詩境の家元を寫して小供にヤンヤミ可采せらる漣山人は今又滑稽さ訓蛤の二種を巧み山狸紀合して七羽鳥由良太郎武勇譚の樂園手抄紙なご色々の趣向を集められたる本は最新麗な翁婆の陳腐なる趣向を脱し小供と挿畫は無二至極的當なり

全一冊洋裝 大判密畫入 頗美本仕立 正價二拾錢 郵税四錢





[Redacted text block]

特62

323

小兒養育法

国立国会図書館

069118-000-4

特62-323

小兒養育法

中村 正道 / 著

M26

CDQ-0155

